

病 院 局

令和 3 年(2021年) 8 月 30 日

民生常任委員会委員 各位

病 院 局 長

資料の配付について

このことについて、下記資料を別添のとおり配付いたします。

記

- 1 令和 2 年度（2 0 2 0 年度） 函館市病院事業の経営実績
- 2 （新）函館市病院事業改革プランの点検・評価

**令和 2 年度 (2020年度)
函館市病院事業の経営実績**

令和3年(2021年)8月
函館市病院局

目 次

I 令和2年度の経営状況

- 1 患者数等および収支状況 1～4 ページ
- 2 主な経営指標等 5～6 ページ

II 過去5か年の経営実績

- 1 医業収益（函館病院） 7～8 ページ
- 2 医業収益（恵山病院） 9 ページ
- 3 医業収益（南茅部病院） 10 ページ
- 4 函館病院の医業収益に対する材料費の割合 11 ページ

III （新）改革プラン収支計画との比較

- 1 収支計画と実績の比較 12 ページ
- 2 函館病院の経営効率化に向けた取り組みの実績 13～14 ページ

参考：市立函館病院における新型コロナウイルス感染症への対応について

- （令和2年2月～令和3年5月31日） 15 ページ

I 令和2年度の経営状況

1 患者数等および収支状況

① 函館病院

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。入院患者数は、前年度に比べ33.5人減の437.1人、年間新規入院患者数（入院件数）は311人減の11,952人となり、年間平均在院日数は0.6日縮まり12.3日となっています。外来患者数（入院中外来を除く）は、前年度に比べ78人減の656.6人となっています。なお、道南地域において新型コロナウイルス感染症の患者が確認（令和2年2月）されて以降、実人数で172人の患者を受け入れています。

区 分	R元決算 A	R2決算見込B	差引B-A
入院患者数	470.6 人/日	437.1 人/日	△ 33.5 人/日
年間新規入院患者数	12,263 人	11,952 人	△ 311 人
年間平均在院日数	12.9 日	12.3 日	△ 0.6 日
外来患者数（入院中外来を除く）	734.6 人/日	656.6 人/日	△ 78.0 人/日
病床利用率（運用病床）	96.0 % (3月末時点一般490床)	89.7 % (3月末時点一般487床)	△ 6.3 %

※函館病院許可病床数 一般598床（一般病床582，結核病床10，感染病床6），精神50床

令和2年度のコロナ関連の特殊な補助金を除いた決算見込は、8,613万円の黒字となりました（単年度資金収支額a）。前年度と比べ、患者数は減となりましたが、診療単価の増により入院収益が増加したこと等から、実質収支の比較では5,119万2千円のプラスとなりました。改革プランに対しては9,087万円のマイナスとなっています。なお、令和2年度から会計年度任用職員制度の導入により、臨時・嘱託職員の人件費は経費から給与費に科目を変更しています。

※前年度等との比較のため、コロナ関連の特殊な補助金を除いて記載しています。（単位：千円）

科目			R元決算A	R2決算見込B	差引B-A	R2改革プランC	差引B-C
経常収益	医業収益	入院収益	12,782,382	13,257,302	474,920	12,901,000	356,302
		外来収益	4,356,113	4,217,337	△ 138,776	4,099,000	118,337
		その他	280,806	225,935	△ 54,871	305,000	△ 79,065
		一般会計繰入金	348,517	346,535	△ 1,982	351,000	△ 4,465
		計	17,767,818	18,047,109	279,291	17,656,000	391,109
経常費用	医業外・学院収益 (うち一般会計繰入金)		1,679,440 (764,101)	1,749,025 (757,388)	69,585 (△ 6,713)	1,706,000 (839,000)	43,025 (△ 81,612)
	計		19,447,258	19,796,134	348,876	19,362,000	434,134
	医業費用	給与費 材料費 経費 その他 計	7,911,850	8,876,994	965,144	7,950,000	926,994
5,438,995			5,710,350	271,355	5,264,000	446,350	
3,688,061			2,963,424	△ 724,637	3,771,000	△ 807,576	
748,878			611,637	△ 137,241	661,000	△ 49,363	
17,787,784			18,162,405	374,621	17,646,000	516,405	
医業外・学院・予備費		1,242,579	1,321,338	78,759	1,148,000	173,338	
計		19,030,363	19,483,743	453,380	18,794,000	689,743	
経常損益			416,895	312,391	△ 104,504	568,000	△ 255,609
特別利益			777,678	695,866	△ 81,812	658,000	37,866
特別損失			72	40	△ 32	10,000	△ 9,960
純損益			1,194,501	1,008,217	△ 186,284	1,216,000	△ 207,783
損益勘定留保資金等			△ 259,438	△ 116,309	143,129	△ 211,000	94,691
小計			935,063	891,908	△ 43,155	1,005,000	△ 113,092
資本的収入 (うち一般会計繰入金)			1,142,603 (1,123,869)	1,296,860 (1,017,734)	154,257 (△ 106,135)	1,018,000 (1,015,000)	278,860 (2,734)
資本的支出			2,042,728	2,102,638	59,910	1,846,000	256,638
資本的収支差引			△ 900,125	△ 805,778	94,347	△ 828,000	22,222
単年度資金収支額a			34,938	86,130	51,192	177,000	△ 90,870
一般会計繰入金 合計			2,236,487	2,121,657	△ 114,830	2,205,000	△ 83,343
うち特殊な繰入金等 b				0			0
実質収支 a-b			34,938	86,130	51,192	177,000	△ 90,870

② 恵山病院

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。
 入院患者数は、前年度に比べ1.7人減の36.8人となっています。
 外来患者数は、前年度に比べ5.4人減の49.9人となっています。
 病床利用率は、前年度に比べ18.2%下回り78.2%となっています。

区 分	R元決算 A	R2決算見込B	差引B-A
入院患者数	38.5 人/日	36.8 人/日	△ 1.7 人/日
外来患者数	55.3 人/日	49.9 人/日	△ 5.4 人/日
病床利用率（運用病床）	96.4 % (3月末時点40床)	78.2 % (3月末時点47床)	△ 18.2 %

※恵山病院許可病床数 療養60床

令和2年度のコロナ関連の特殊な補助金を除いた決算見込は、2,672万3千円の赤字となりました（単年度資金収支額a）。前年度と比べ、患者数の減等により入院・外来収益が減少しましたが、人事異動等による給与費の減により、一般会計からの特殊な繰入金で6,635万4千円マイナスとなったほか、一般会計からの特殊な繰入金を除いた実質収支の比較では3,751万3千円のプラスとなりました。改革プランに対しては7,400万円のマイナスとなっています。

※前年度等との比較のため、コロナ関連の特殊な補助金を除いて記載しています。（単位：千円）

科目			R元決算A	R2決算見込B	差引B-A	R2改革プランC	差引B-C
経常収益	医業収益	入院収益	298,506	297,760	△ 746	337,000	△ 39,240
		外来収益	103,194	89,309	△ 13,885	149,000	△ 59,691
		その他	14,482	16,319	1,837	14,000	2,319
		一般会計繰入金	37,991	37,991	0	38,000	△ 9
		計	454,173	441,379	△ 12,794	538,000	△ 96,621
経常費用	医業外収益		261,599	191,580	△ 70,019	143,000	48,580
	(うち一般会計繰入金)		(246,495)	(178,309)	(△ 68,186)	(130,000)	(48,309)
	計		715,772	632,959	△ 82,813	681,000	△ 48,041
経常費用	医業費用	給与費	418,309	413,415	△ 4,894	361,000	52,415
		材料費	54,809	55,193	384	71,000	△ 15,807
		経費	175,479	121,578	△ 53,901	190,000	△ 68,422
		その他	37,041	36,587	△ 454	39,000	△ 2,413
		計	685,638	626,773	△ 58,865	661,000	△ 34,227
経常費用	医業外費用		29,955	26,589	△ 3,366	24,000	2,589
	計		715,593	653,362	△ 62,231	685,000	△ 31,638
	経常損益		179	△ 20,403	△ 20,582	△ 4,000	△ 16,403
特別利益			9,873	11,070	1,197	11,000	70
特別損失				3	3	1,000	△ 997
純損益			10,052	△ 9,336	△ 19,388	6,000	△ 15,336
損益勘定留保資金等			12,777	8,791	△ 3,986	20,000	△ 11,209
小計			22,829	△ 545	△ 23,374	26,000	△ 26,545
資本的収入			21,847	19,935	△ 1,912	20,000	△ 65
(うち一般会計繰入金)			(21,847)	(19,935)	(△ 1,912)	(20,000)	(△ 65)
資本的支出			42,558	46,113	3,555	46,000	113
資本的収支差引			△ 20,711	△ 26,178	△ 5,467	△ 26,000	△ 178
単年度資金収支額a			2,118	△ 26,723	△ 28,841	0	△ 26,723
一般会計繰入金 合計			306,333	236,235	△ 70,098	188,000	48,235
うち特殊な繰入金等 b			126,631	60,277	△ 66,354	13,000	47,277
実質収支 a-b			△ 124,513	△ 87,000	37,513	△ 13,000	△ 74,000

③ 南茅部病院

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。
 入院患者数は、一般では前年度に比べ0.3人減の21.0人となっています。
 また、療養では前年度に比べ6.2人減の6.9人となっています。
 外来患者数は、前年度に比べ6.2人減の72.7人となっています。
 病床利用率は、前年度に比べ11.0%下回り47.3%となっています。

区 分	R元決算 A	R2決算見込B	差引B-A
入院患者数（一般）	21.3 人/日	21.0 人/日	△ 0.3 人/日
〃（療養）	13.1 人/日	6.9 人/日	△ 6.2 人/日
外来患者数	78.9 人/日	72.7 人/日	△ 6.2 人/日
病床利用率（運用病床）	58.3 % (3月末時点59床)	47.3 % (3月末時点59床)	△ 11.0 %

※南茅部病院許可病床数 一般37床、療養22床

令和2年度のコロナ関連の特殊な補助金を除いた決算見込は、397万7千円の赤字となりました（単年度資金収支額a）。前年度と比べ、患者数や診療単価の減により入院・外来収益が減少しましたが、診療応援に係る経費の減等により、一般会計からの特殊な繰入金金は3,017万5千円マイナスとなったほか、一般会計からの特殊な繰入金を除いた実質収支の比較では1,320万4千円のプラスとなりました。改革プランに対しては3,356万3千円のマイナスとなっています。

※前年度等との比較のため、コロナ関連の特殊な補助金を除いて記載しています。（単位：千円）

科目			R元決算A	R2決算見込B	差引B-A	R2改革プランC	差引B-C
経常収益	医業収益	入院収益	209,398	179,428	△ 29,970	255,000	△ 75,572
		外来収益	109,688	94,050	△ 15,638	115,000	△ 20,950
		その他	8,572	7,341	△ 1,231	9,000	△ 1,659
		一般会計繰入金	37,991	37,991	0	38,000	△ 9
		計	365,649	318,810	△ 46,839	417,000	△ 98,190
経常費用	医業外収益 (うち一般会計繰入金)		252,605 (250,226)	229,381 (225,792)	△ 23,224 (△ 24,434)	190,000 (187,000)	39,381 (38,792)
	計		618,254	548,191	△ 70,063	607,000	△ 58,809
	経常費用	医業費用	給与費	275,910	370,810	94,900	298,000
材料費			72,462	60,388	△ 12,074	82,000	△ 21,612
経費			230,277	109,957	△ 120,320	234,000	△ 124,043
その他			3,847	3,187	△ 660	5,000	△ 1,813
計			582,496	544,342	△ 38,154	619,000	△ 74,658
経常費用	医業外費用		17,650	16,581	△ 1,069	18,000	△ 1,419
	計		600,146	560,923	△ 39,223	637,000	△ 76,077
	経常損益		18,108	△ 12,732	△ 30,840	△ 30,000	17,268
特別利益		10,355	9,107	△ 1,248	9,000	107	
特別損失			0	0	1,000	△ 1,000	
純損益		28,463	△ 3,625	△ 32,088	△ 22,000	18,375	
損益勘定留保資金等		△ 5,581	8,803	14,384	32,000	△ 23,197	
小計		22,882	5,178	△ 17,704	10,000	△ 4,822	
資本的収入 (うち一般会計繰入金)		10,162 (10,162)	9,031 (9,031)	△ 1,131 (△ 1,131)	9,000 (9,000)	31 (31)	
資本的支出		20,050	18,186	△ 1,864	19,000	△ 814	
資本的収支差引		△ 9,888	△ 9,155	733	△ 10,000	845	
単年度資金収支額a		12,994	△ 3,977	△ 16,971	0	△ 3,977	
一般会計繰入金 合計		298,379	272,814	△ 25,565	234,000	38,814	
うち特殊な繰入金等 b		126,761	96,586	△ 30,175	67,000	29,586	
実質収支 a-b		△ 113,767	△ 100,563	13,204	△ 67,000	△ 33,563	

④ 3病院合計

3病院の合計では、コロナ関連の特殊な補助金を除いて5,543万円の黒字となりました（単年度資金収支額a）。前年度と比べ、函館病院の入院収益が増加したこと等により、一般会計からの特殊な繰入金を除いた実質収支の比較では1億190万9千円のプラス、改革プランに対しては1億9,843万3千円のマイナスとなっています。

なお、参考として、過去5か年の特殊要素を除いた実質収支の推移を記載しています。

※前年度等との比較のため、コロナ関連の特殊な補助金を除いて記載しています。（単位：千円）

科目			R元決算A	R2決算見込B	差引B-A	R2改革プランC	差引B-C
経常収益	医業収益	入院収益	13,290,286	13,734,490	444,204	13,493,000	241,490
		外来収益	4,568,995	4,400,696	△ 168,299	4,363,000	37,696
		その他	303,860	249,595	△ 54,265	328,000	△ 78,405
		一般会計繰入金	424,499	422,517	△ 1,982	427,000	△ 4,483
		計	18,587,640	18,807,298	219,658	18,611,000	196,298
経常費用	医業外収益 (うち一般会計繰入金)		2,193,644 (1,260,822)	2,169,986 (1,161,489)	△ 23,658 (△ 99,333)	2,039,000 (1,156,000)	130,986 (5,489)
	計		20,781,284	20,977,284	196,000	20,650,000	327,284
	経常費用	医業費用	給与費	8,606,069	9,661,219	1,055,150	8,609,000
材料費			5,566,266	5,825,931	259,665	5,417,000	408,931
経費			4,093,817	3,194,959	△ 898,858	4,195,000	△ 1,000,041
その他			789,766	651,411	△ 138,355	705,000	△ 53,589
計			19,055,918	19,333,520	277,602	18,926,000	407,520
経常費用	医業外・学院・予備費		1,290,184	1,364,508	74,324	1,190,000	174,508
	計		20,346,102	20,698,028	351,926	20,116,000	582,028
	経常損益		435,182	279,256	△ 155,926	534,000	△ 254,744
特別利益			797,906	716,043	△ 81,863	678,000	38,043
特別損失			72	43	△ 29	12,000	△ 11,957
純損益			1,233,016	995,256	△ 237,760	1,200,000	△ 204,744
損益勘定留保資金等			△ 252,242	△ 98,715	153,527	△ 159,000	60,285
小計			980,774	896,541	△ 84,233	1,041,000	△ 144,459
資本的収入 (うち一般会計繰入金)			1,174,612 (1,155,878)	1,325,826 (1,046,700)	151,214 (△ 109,178)	1,047,000 (1,044,000)	278,826 (2,700)
資本的支出			2,105,336	2,166,937	61,601	1,911,000	255,937
資本的収支差引			△ 930,724	△ 841,111	89,613	△ 864,000	22,889
単年度資金収支額a			50,050	55,430	5,380	177,000	△ 121,570
一般会計繰入金 合計			2,841,199	2,630,706	△ 210,493	2,627,000	3,706
うち特殊な繰入金等 b			253,392	156,863	△ 96,529	80,000	76,863

実質収支 a-b	△ 203,342	△ 101,433	101,909	97,000	△ 198,433
-----------------	-----------	-----------	----------------	--------	------------------

実質収支の推移

(単位：千円)

区分	H28	H29	H30	R元	R2
函館病院	△ 998,890	△ 988,156	78,290	34,938	86,130
恵山病院	△ 13,598	△ 94,902	△ 49,847	△ 124,513	△ 87,000
南茅部病院	△ 56,636	△ 91,408	△ 86,864	△ 113,767	△ 100,563
3病院合計	△ 1,069,124	△ 1,174,466	△ 58,421	△ 203,342	△ 101,433

2 主な経営指標等

① 経営指標に係る数値目標と実績

(単位：％)

区分	函館病院		恵山病院		南茅部病院	
	経常収支比率	医業収支比率	経常収支比率	医業収支比率	経常収支比率	医業収支比率
H30	104.5	101.0	93.2	65.6	105.7	71.3
R元	102.2	99.9	100.0	66.2	103.0	62.8
R2目標 (改革プラン)	100%以上	95%以上	100%以上	73%以上	100%以上	73%以上
R2実績	110.0	99.4	100.7	70.4	100.8	58.6

(参考) 同規模病院の全国平均値 (平成30年度)

区分	500床以上の病院		不採算地区病院で 50床以上100床未満	
	経常収支比率	医業収支比率	経常収支比率	医業収支比率
民間病院	98.2	97.4	—	—
公的病院 (自治体以外)	100.7	100.4	—	—
公立病院 (黒字)	102.3	98.7	103.2	80.3
公立病院 (上位1/2)	104.0	100.7	105.6	85.6
公立病院 (全体)	100.0	95.5	97.3	76.1

※ 各指標の算式 (消費税抜き)

1. 経常収支比率

経常収益 (医業収益 + 医業外収益) ÷ 経常費用 (医業費用 + 医業外費用) × 100

2. 医業収支比率

医業収益 ÷ 医業費用 × 100

② 医療機能等指標に係る数値目標と実績

□ 函館病院

項目	目標値	R元実績	R2実績
院内がん登録件数（※）	1,500件以上	1,378件	（見込）1,343件
救急車受入件数（へり含む）	5,000件以上	5,687件	5,097件
手術件数（手術室分）	3,000件以上	2,963件	2,627件
分娩件数	200件以上	148件	170件
他病院への医師等派遣	年間延べ200日以上	301日	314日

※院内がん登録件数については1月～12月の暦年で表示。R2は集計中のため見込数値。

□ 恵山病院

項目	目標値	R元実績	R2実績
入院患者のうち、医療区分2,3（※）の割合	80%以上を維持	83.4%	84.4%
救急患者受入人数	300人以上を維持	329人	193人
入院透析患者数	11人	9.6人	12.1人
外来透析患者数	5人	8.8人	7.7人
地域ケア会議の開催	年12回開催を維持	年5回開催	年6回開催

※人工呼吸器や人工透析等を必要とする、慢性期の中でも医療の必要度が高い患者

□ 南茅部病院

項目	目標値	R元実績	R2実績
救急患者受入人数	300人以上を維持	278人	61人
地域ケア会議の開催	年12回開催	年5回開催	年3回開催
地域との懇談会等の開催	年8回開催	年0回開催	年0回開催

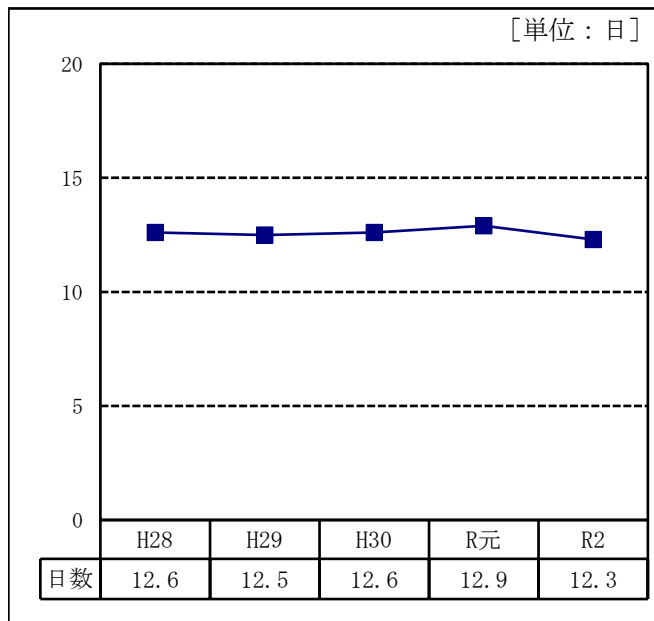
Ⅱ 過去5か年の経営実績

1 医業収益（函館病院）

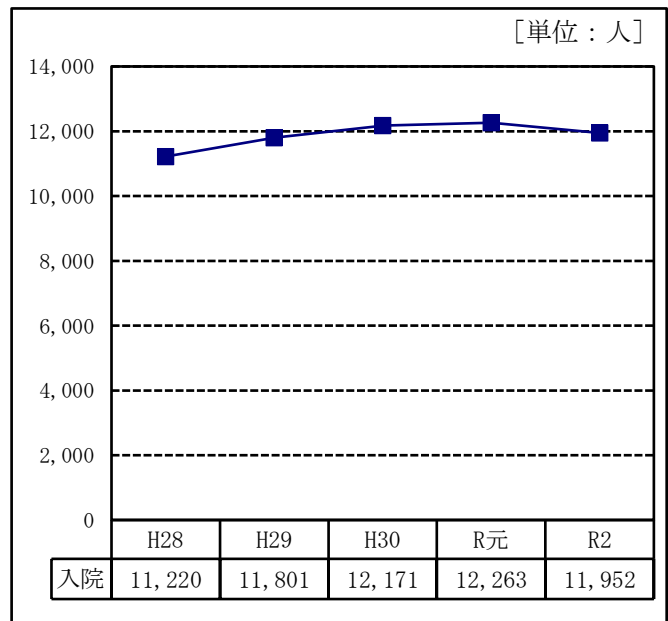
令和2年度の一般の年間平均在院日数は12.3日で、前年度の12.9日に対し0.6日縮まり、また、新規入院患者数は11,952人で、前年度の12,263人に対し311人の減となったことから、1日平均の入院患者数は437.1人となり、前年度の470.6人に対し33.5人の減となっています。

患者1人あたり入院診療単価は83,091.4円で、前年度の74,230.4円に対し8,861円の増となっています。

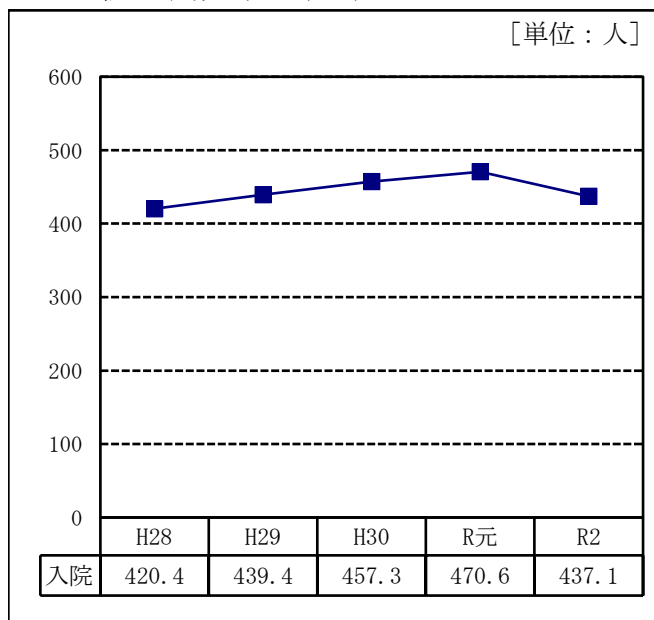
□ 年間平均在院日数（一般）



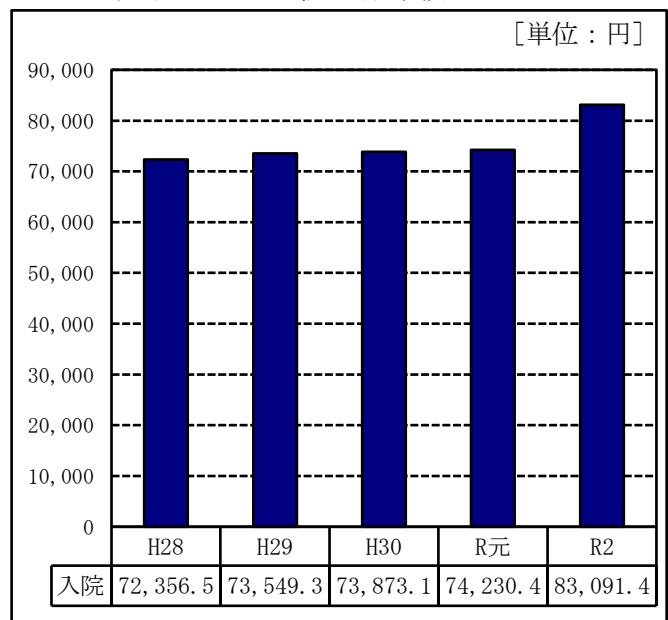
□ 新規入院患者数



□ 入院患者数（1日平均）



□ 患者1人あたり入院診療単価

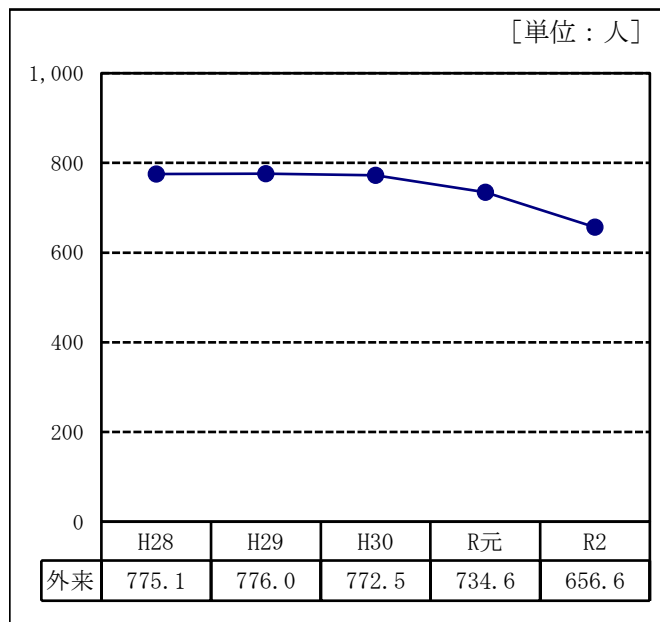


令和2年度の入院中外来を除いた1日平均の外来患者数は656.6人で、前年度の734.6人に対し78人の減となっています。

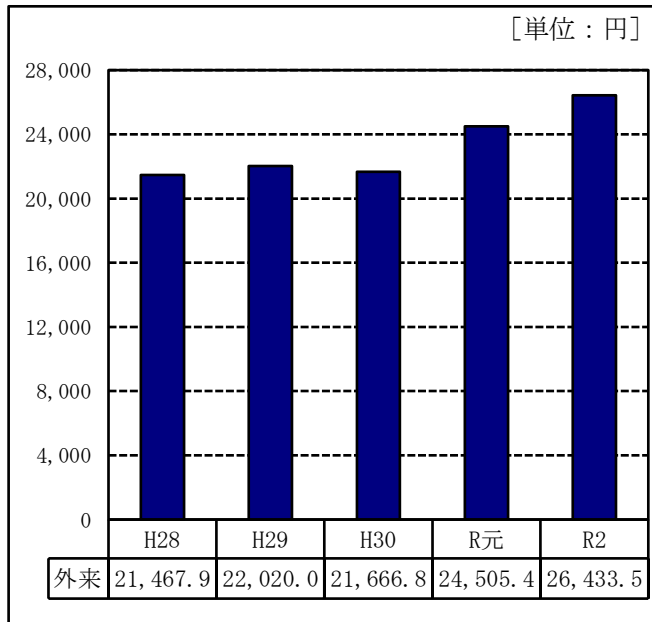
患者1人あたり外来診療単価は26,433.5円で、前年度の24,505.4円に対し1,928.1円の増となっています。

また、救急患者を除いた患者紹介率は62.3%で、前年度の50.3%に対し12%の増、逆紹介率は133.5%で、前年度の114.1%に対し19.4%の増となっています。

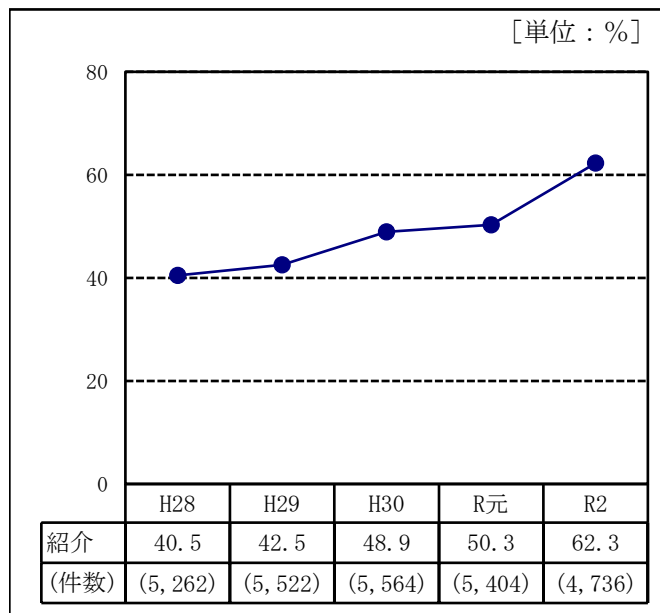
□ 外来患者数（1日平均）



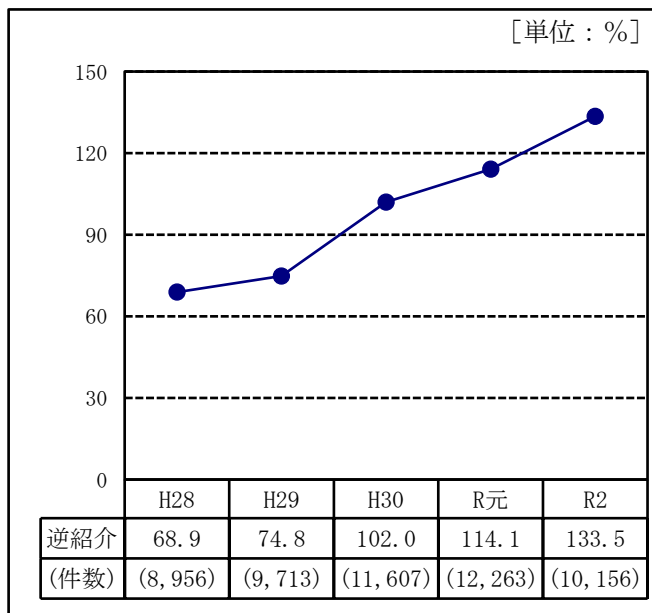
□ 患者1人あたり外来診療単価



□ 患者紹介率（救急患者を除く）



□ 患者逆紹介率

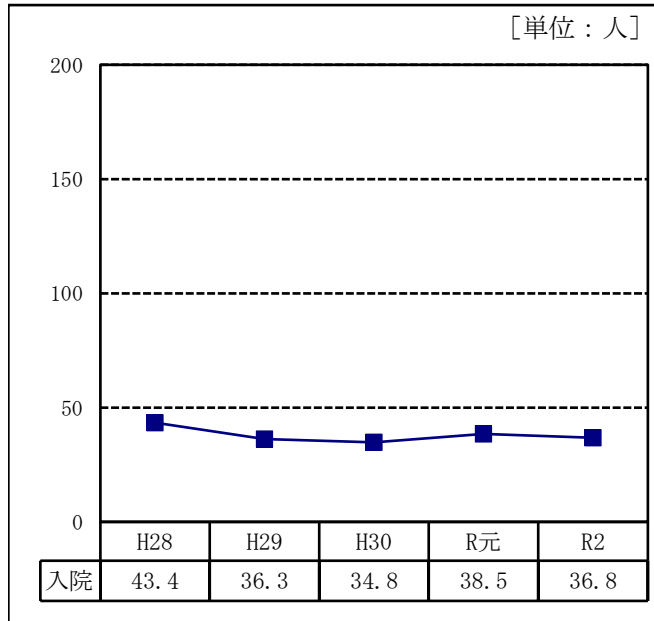


2 医業収益（恵山病院）

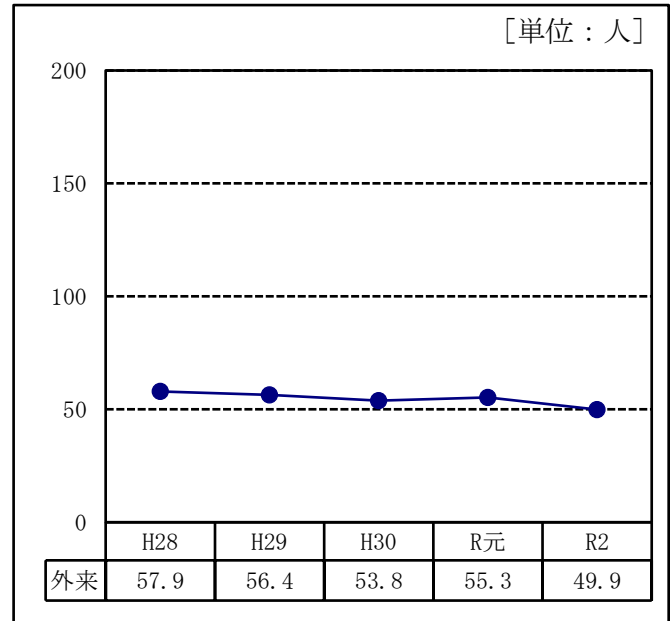
令和2年度の1日平均の入院患者数は36.8人で、前年度の38.5人に対し1.7人の減、外来患者数は49.9人で、前年度の55.3人に対し5.4人の減となっています。

患者1人あたり入院診療単価は22,186.1円で、前年度の21,160.2円に対し1,025.9円の増、外来診療単価は7,363.6円で、前年度の7,776.3円に対し412.7円の減となっています。

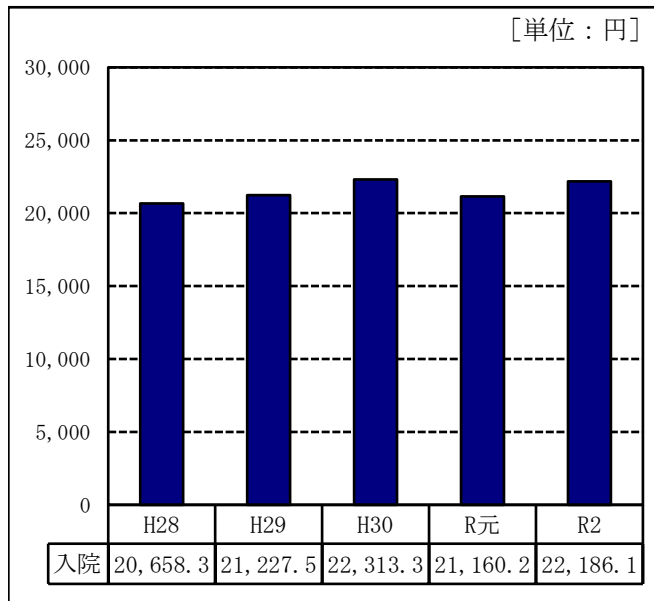
□ 入院患者数（1日平均）



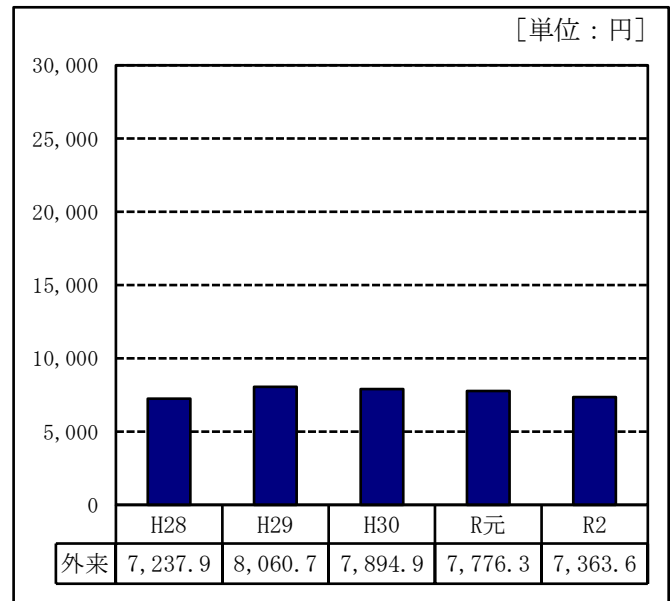
□ 外来患者数（1日平均）



□ 患者1人あたり入院診療単価



□ 患者1人あたり外来診療単価



3 医業収益（南茅部病院）

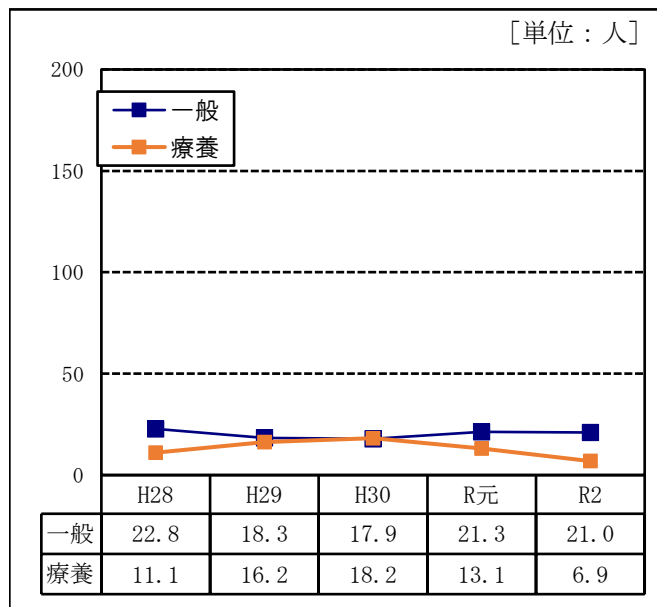
令和2年度の1日平均の入院患者数は、一般は21.0人で、前年度の21.3人に対し0.3人の減、療養は6.9人で、前年度の13.1人に対し6.2人の減となっています。

また、外来患者数は72.7人で、前年度の78.9人に対し6.2人の減となっています。

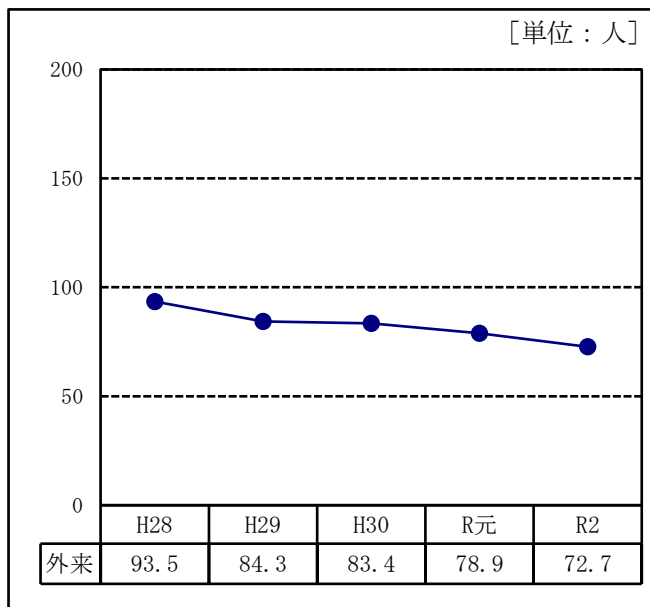
患者1人あたり入院診療単価は、一般は20,795.1円で、前年度の21,988.5円に対し1,193.4円の減、療養は7,847.9円で、前年度の7,910.4円に対し62.5円の減となっています。

また、外来診療単価は5,324.5円で、前年度の5,794.4円に対し469.9円の減となっています。

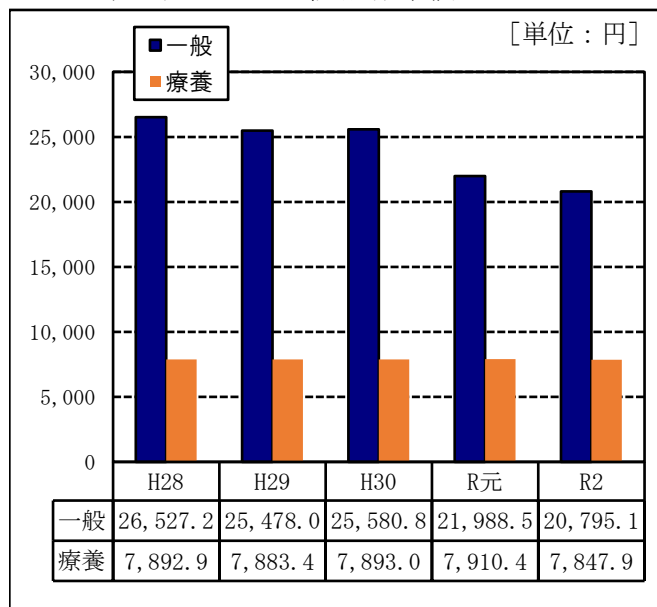
□ 入院患者数（1日平均）



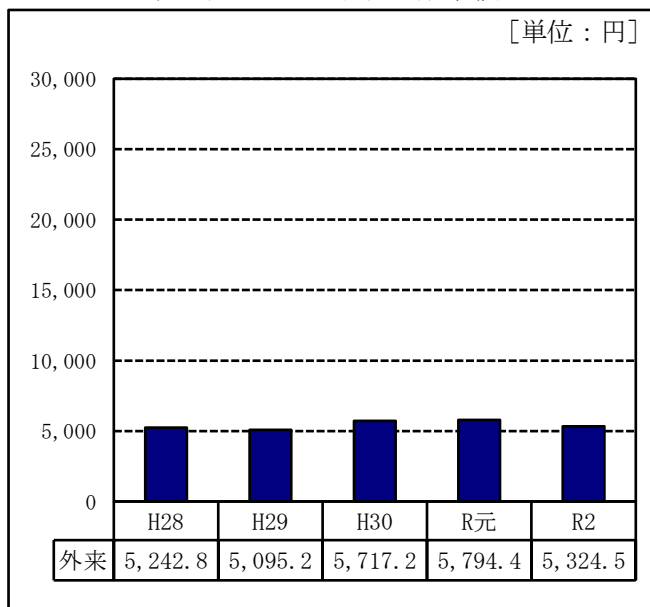
□ 外来患者数（1日平均）



□ 患者1人あたり入院診療単価



□ 患者1人あたり外来診療単価



4 函館病院の医業収益に対する材料費の割合

函館病院のジェネリック医薬品の採用率は、令和2年度 品目数ベースで87.8%となっており、前年度の86.2%に対し1.6%増となっています。

入院・外来収益の合計は、患者1人あたり入院診療単価の増等により前年度に比べ3億3,476万8千円増加していますが、これに伴い材料費も前年度に比べ3億5,528万3千円増加しました。

その結果、材料費が医業収益に占める割合は前年度に対して1.38%の増の35.22%となったものの、医業収益から材料費を除いた数値につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響下において前年度を下回ったものの、平成30年度を上回っています。

【ジェネリック医薬品の採用状況】

※品目数ベース

ジェネリック医薬品採用数÷使用薬品の内ジェネリック医薬品がある薬品数×100

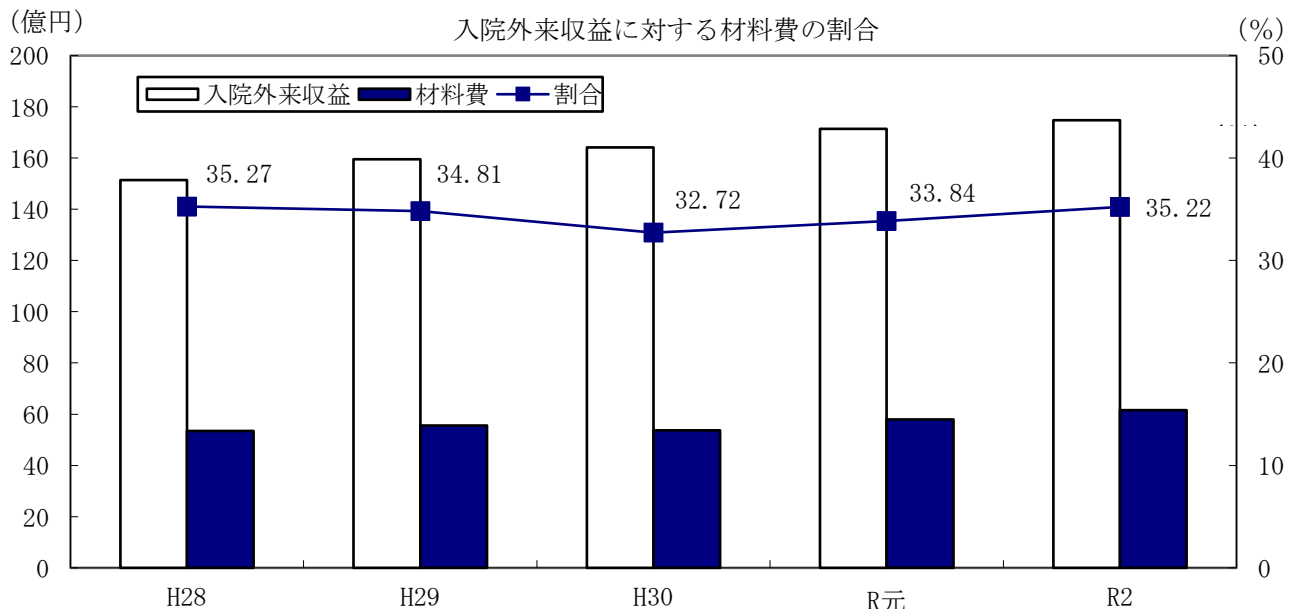
H31.3月末現在
83.7%



R2.3月末現在
86.2%



R3.3月末現在
87.8%



[単位：千円]

区分	H28	H29	H30	R元	R2	R2-R元
入院収益	11,103,392	11,795,622	12,329,573	12,784,109	13,257,732	473,623
外来収益	4,043,552	4,152,098	4,083,936	4,356,688	4,217,833	△ 138,855
計 A	15,146,944	15,947,720	16,413,509	17,140,797	17,475,565	334,768
薬品費	3,314,283	3,482,519	3,288,569	3,554,326	3,624,916	70,590
診療材料費	2,027,861	2,068,254	2,082,149	2,245,629	2,530,322	284,693
計 B	5,342,144	5,550,773	5,370,718	5,799,955	6,155,238	355,283
B÷A×100	35.27%	34.81%	32.72%	33.84%	35.22%	1.38%
A-B	9,804,800	10,396,947	11,042,791	11,340,842	11,320,327	-20,515

※消費税込みの額で算出しているため1ページの数値とは一致しません。

※参考：全国公私病院連盟の調査に基づく500床以上病院の平均値

区分	H26.6調査	H27.6調査	H28.6調査	H29.6調査	H30.6調査
材料比率(※)	25.1%	27.9%	27.5%	29.3%	27.5%

※材料費（薬品費＋診療材料費＋医療用消耗備品費＋給食用材料費）÷医業収益（入院＋外来＋その他）

Ⅲ (新) 改革プラン収支計画との比較

1 収支計画と実績の比較

□ 資金過不足額

(単位：百万円)

区 分			H29	H30	R元	R2
函館病院	単年度	計画	△ 1,670	△ 176	0	177
		実績	△ 1,670	78	35	1,724
	累積	計画	△ 3,220	△ 3,396	△ 3,396	△ 3,219
		実績	△ 3,220	△ 3,142	△ 3,107	△ 1,383
恵山病院	単年度	計画	△ 29	△ 20	0	0
		実績	△ 29	2	2	△ 2
	累積	計画	20	0	0	0
		実績	20	22	24	23
南茅部病院	単年度	計画	△ 9	△ 27	0	0
		実績	△ 9	△ 6	13	13
	累積	計画	27	0	0	0
		実績	27	21	34	47
合計	単年度	計画	△ 1,708	△ 223	0	177
		実績	△ 1,708	74	50	1,735
	累積	計画	△ 3,173	△ 3,396	△ 3,396	△ 3,219
		実績	△ 3,173	△ 3,099	△ 3,049	△ 1,313

注 R2の資金過不足額には、コロナ関連の特殊な補助金（函館16億3,800万円、恵山2,500万円、南茅部1,700万円、計16億8,000万円）を含む。

□ 資金不足比率

(単位：百万円)

区 分	H29	H30	R元	R2
計 画	18.3	18.9	18.3	17.2
実 績	18.3	17.3	16.4	6.9

※ H30の給与見直しの効果額を含む

□ 一般会計繰入金

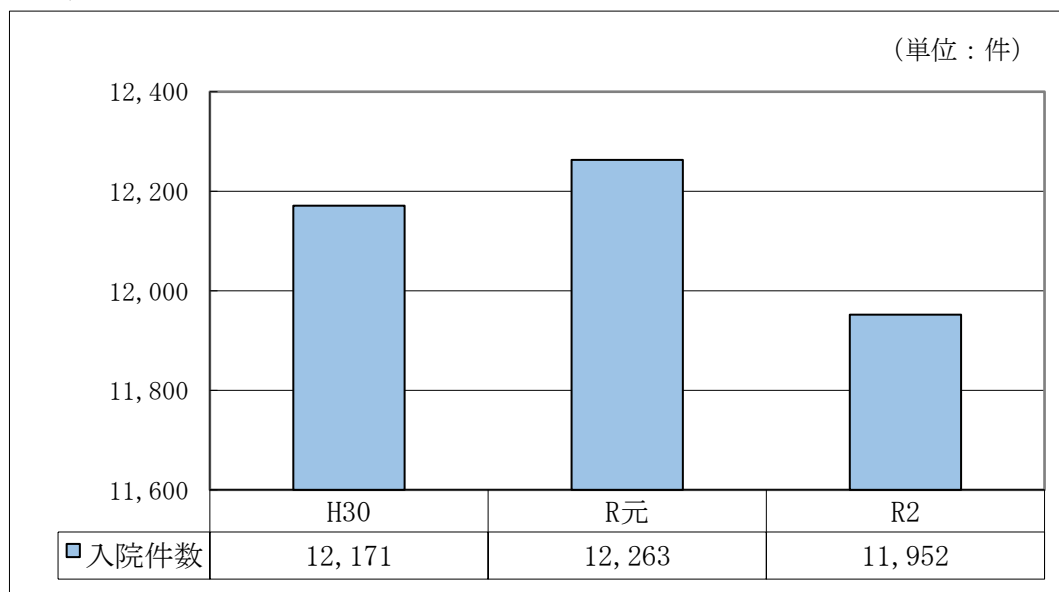
(単位：百万円)

区 分	H29	H30	R元	R2
計 画	2,944	2,896	2,738	2,627
実 績	2,944	2,895	2,841	2,631

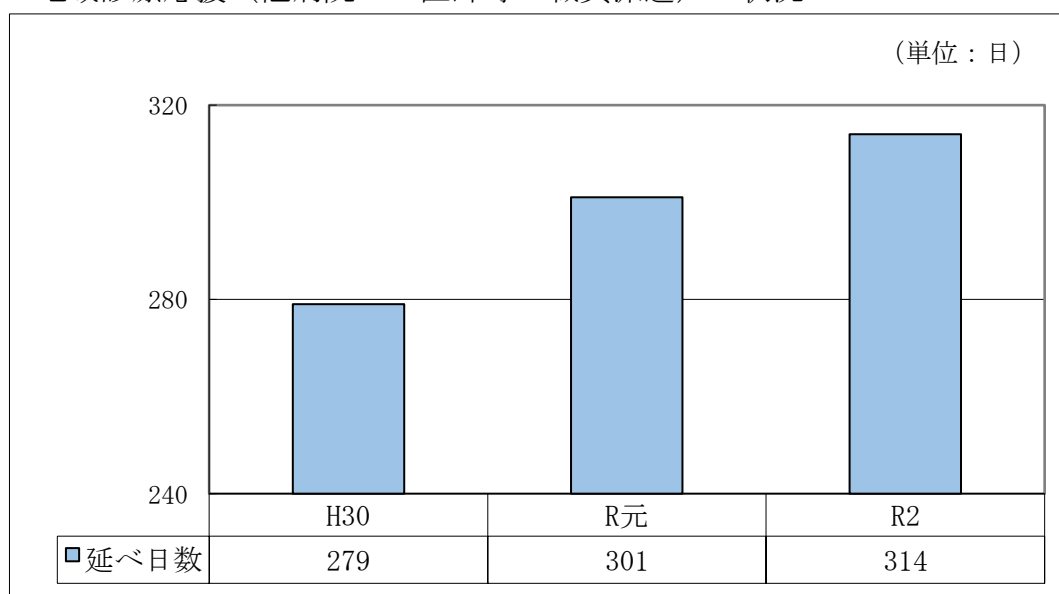
2 函館病院の経営効率化に向けた取り組みの実績

(1) 入院件数の増加

① 入院件数



② 地域診療応援（他病院への医師等の職員派遣）の状況



※派遣先病院：北海道立江差病院，木古内町国民健康保険病院，
森町国民健康保険病院，松前町立松前病院，長万部町立病院
奥尻町国民健康保険病院，せたな町立国保病院

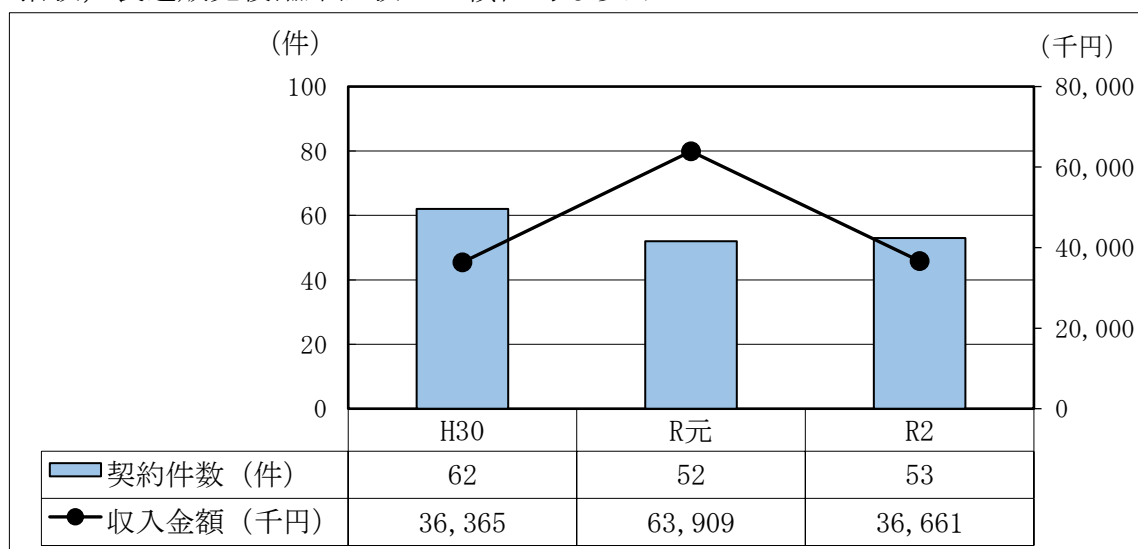
(2) 平均在院日数の適正化

退院時のDPC入院期間の割合

(単位：%)

区分	H30	R元	R2
I～II以内	53.8	52.4	55.2
上記以外	46.2	47.6	44.8

(3) 治験、製造販売後臨床試験への積極的な参加

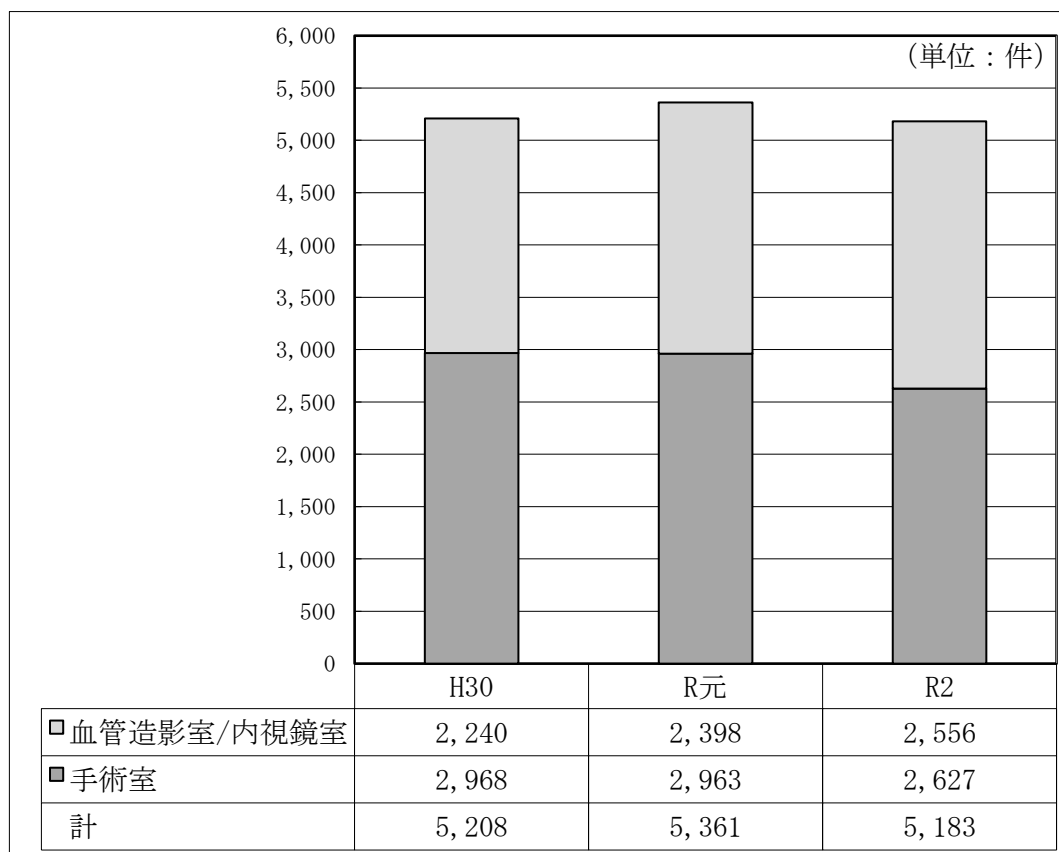


(4) 材料比率の見直し

(単位：千円)

区 分	H30	R元	R2
入院外来収益 A	16,413,509	17,140,797	17,475,565
薬品診療材料費 B	5,370,718	5,799,955	6,155,238
B/A (%)	32.7	33.8	35.2
A - B	11,042,791	11,340,842	11,320,327

(5) 手術件数



参考：市立函館病院における新型コロナウイルス感染症への対応について

(令和2年2月～令和3年5月31日)

1. 地域における医療体制の役割分担

道南地域では、函館市医師会が中心となり、道南の主要な医療関係者と保健所が連携協力し調整した医療体制の役割分担のもと、市立函館病院は、重症・中等症の患者を中心に、基礎疾患を有するなどのリスクがある軽症患者の受入れを行っています。

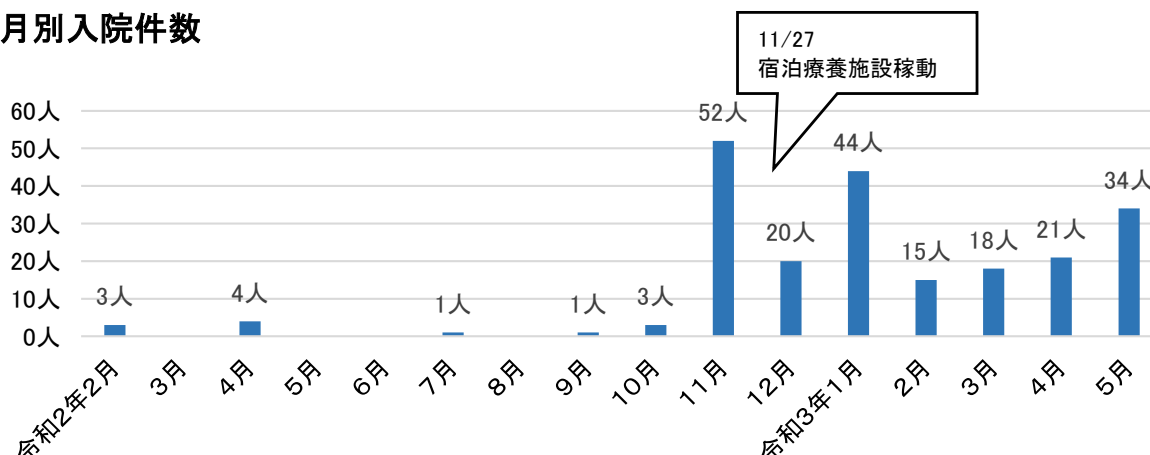
2. 新型コロナウイルス感染症の患者数および函病における入院患者数

	患者数
渡島振興局管内	1,022人
檜山振興局管内	118人
計 A	1,140人

	患者数
函病入院数 B	216人

$B/A \times 100$	18.9
------------------	------

3. 月別入院件数



4. 入院患者の住所地

二次医療圏	患者数
南渡島 (うち函館市)	203人 (168人)
北渡島檜山	3人
南檜山	7人
その他	3人
計	216人

5. 重症割合、平均入院日数

	軽症・中等症	重症
患者数	147人	69人
(割合(%))	68.1	31.9
平均入院日数	11.2日	13.6日

(新) 函館市病院事業改革プランの 点検・評価

**令和3年8月
函館市病院局**

目 次

1	（新）函館市病院事業改革プランの点検・評価について	1
2	函館病院の取組みと自己評価について	2
3	恵山病院の取組みと自己評価について	1 3
4	南茅部病院の取組みと自己評価について	1 7
5	経営に関する全体的な自己評価（3病院）	2 0
6	函館市病院事業経営改革評価委員会による総合的な評価	2 1

1 (新) 函館市病院事業改革プランの点検・評価について

- 改革プランの計画期間 平成28年度～令和2年度（5年間）

- プラン実施状況の点検・評価の実施方法

これまで函館市病院事業経営改革評価委員会において、四半期ごとの収支の実績を中心に議論。

- 計画期間の終了にあたり、プランで取り組むべきこととした事項について、以下の3段階で改めて評価を実施。

評価の区分

A 目標を十分達成した。

B 目標をおおむね達成した、または達成に向け継続して取り組んでいる。

C 達成できなかった、または取り組みがなされていない。

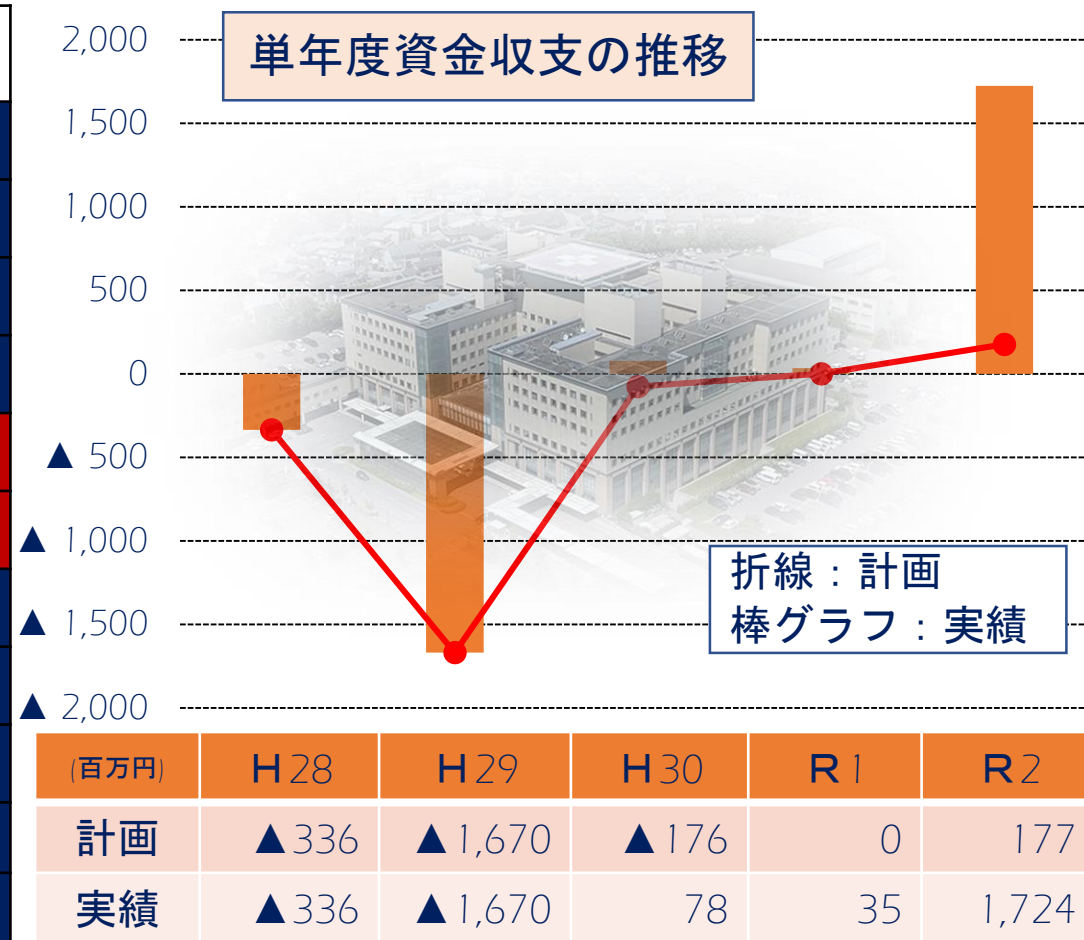
2 函館病院の取組みと自己評価について

函館病院は「道南の中核医療機関として、高度急性期・急性期医療を担う」ことを役割として掲げ、入院件数の確保、平均在院日数の適正化、紹介率・逆紹介率やクリニカルパス適用率の向上などの取組みを進めてきたが、その内容と評価は下記のとおりである。経営状況については、H30より3か年連続で単年度黒字を達成しており、全体的な評価はAとした。

自己評価
(全体)

A

区 分	自己評価	区 分	自己評価
院内がん登録数	B	紹介患者数の確保	A
救急車受入件数(ℎリ含)	A	クリニカルパス適用率	A
手術件数	A	D P C I ~ II 入院期間	A
分娩件数	B	紹介率・逆紹介率	A
他病院への医師派遣	A	D P C II 群病院の指定	C
地域の人材育成	A	精神病棟再開	C
経常収支比率	A	一般事務職員の独自採用	A
医業収支比率	A	E S C O 事業	A
年間入院件数	A	治験・臨床試験への参加	A
1件あたり入院収益	A	材料比率の見直し	A
		再編・ネットワーク化推進	A

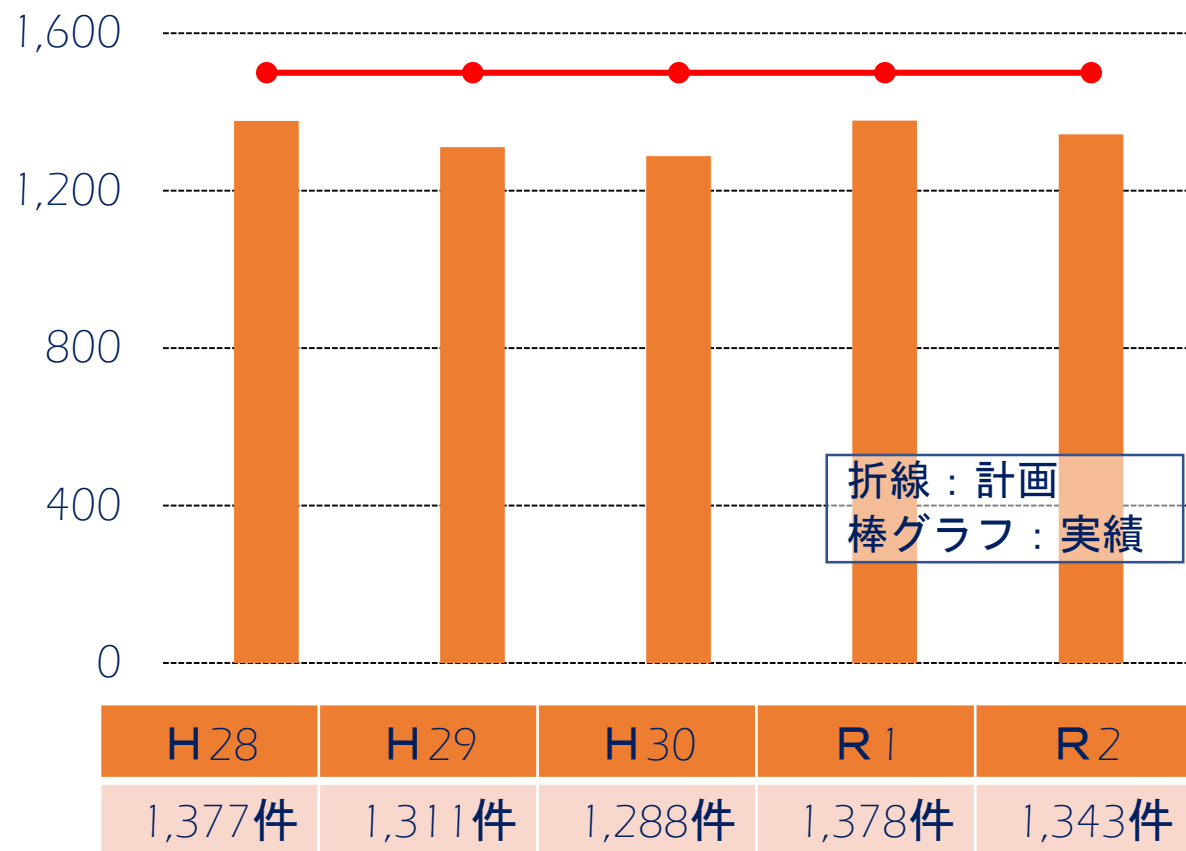


院内がん登録数

地域がん診療連携拠点病院として、がんの罹患，診療，転帰等に関する情報を記録する。**目標値 年1,500件以上** → 計画期間中は，目標値の86～92%の登録を達成。

自己評価

B

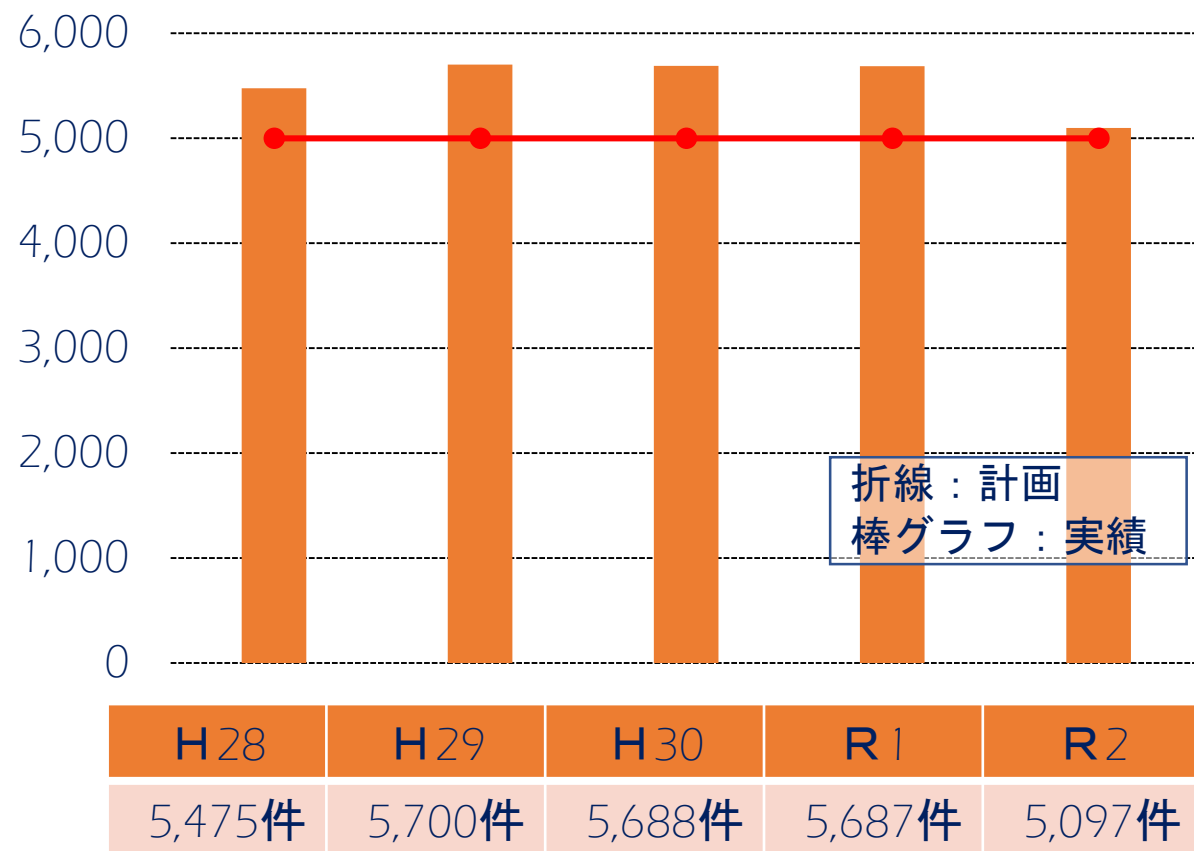


救急車受入件数（へり含む）

南渡島，南松山，北渡島檜山を対象範囲とした3次救急医療機関(救命救急センター)としての役割を果たす。**目標値 年5,000件以上** → 毎年度5,000件を超える受入れ。

自己評価

A

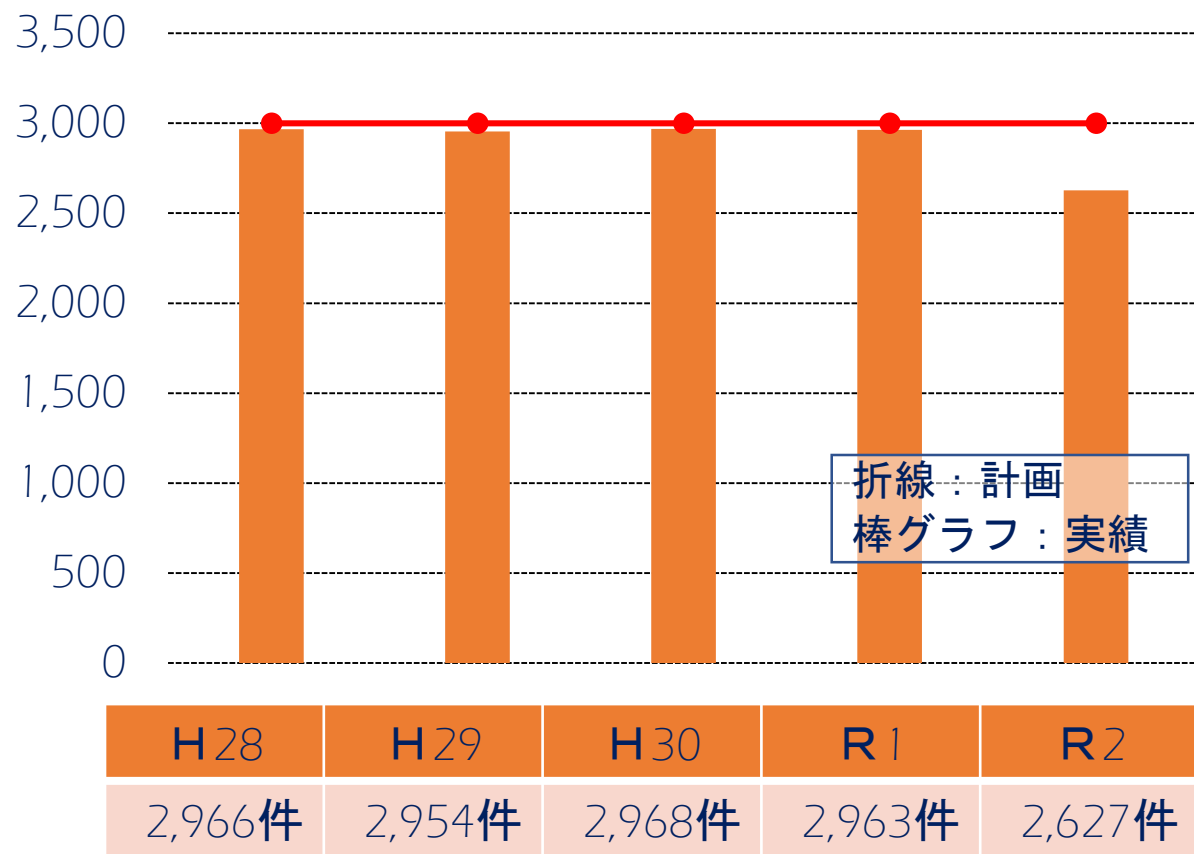


手術件数

3次医療圏の中核医療機関として高度急性期・急性期医療を提供する。**目標値 年3,000件以上** → 計画期間中は、目標値の88～99%の手術を実施。

自己評価

A

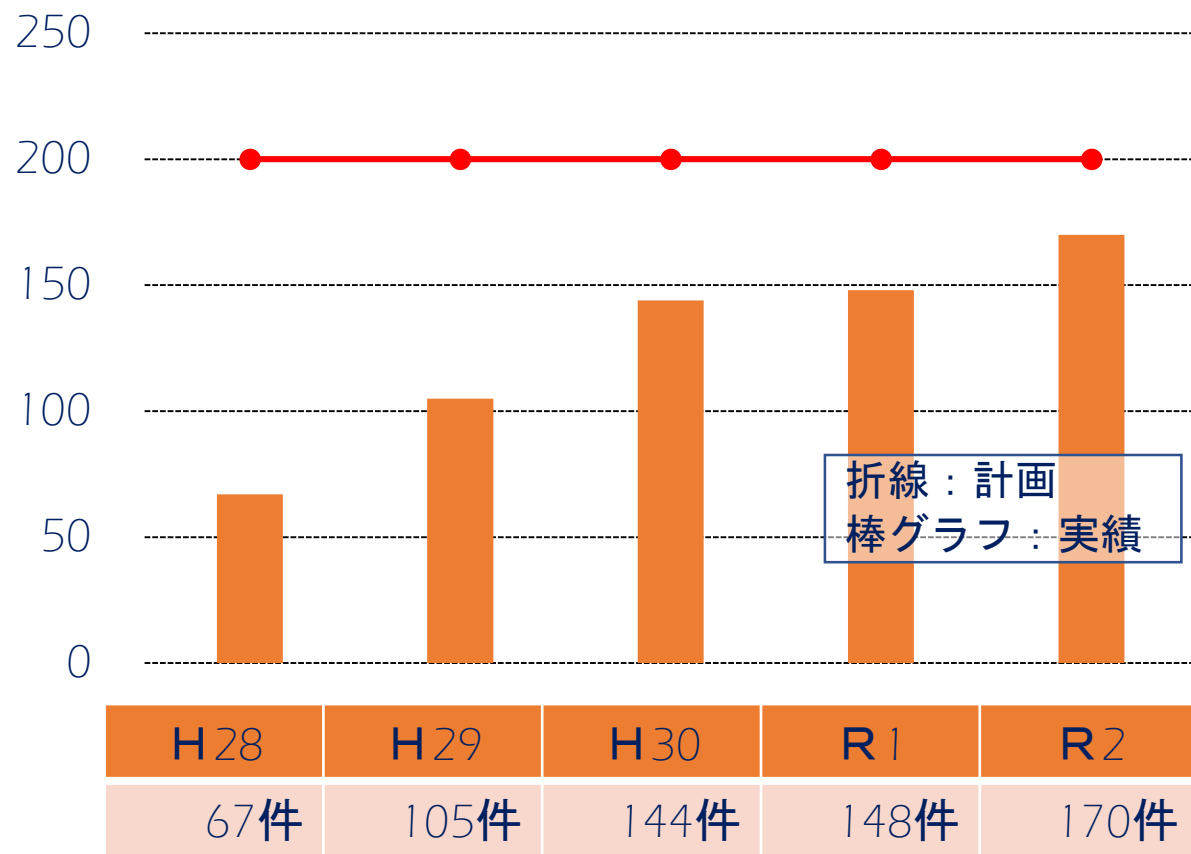


分娩件数

高度な周産期医療を行う地域周産期センターとしての役割を果たす。**目標値 年200件以上** → 毎年度分娩件数は増加し、最終年次は目標値の85%の分娩を実施。

自己評価

B

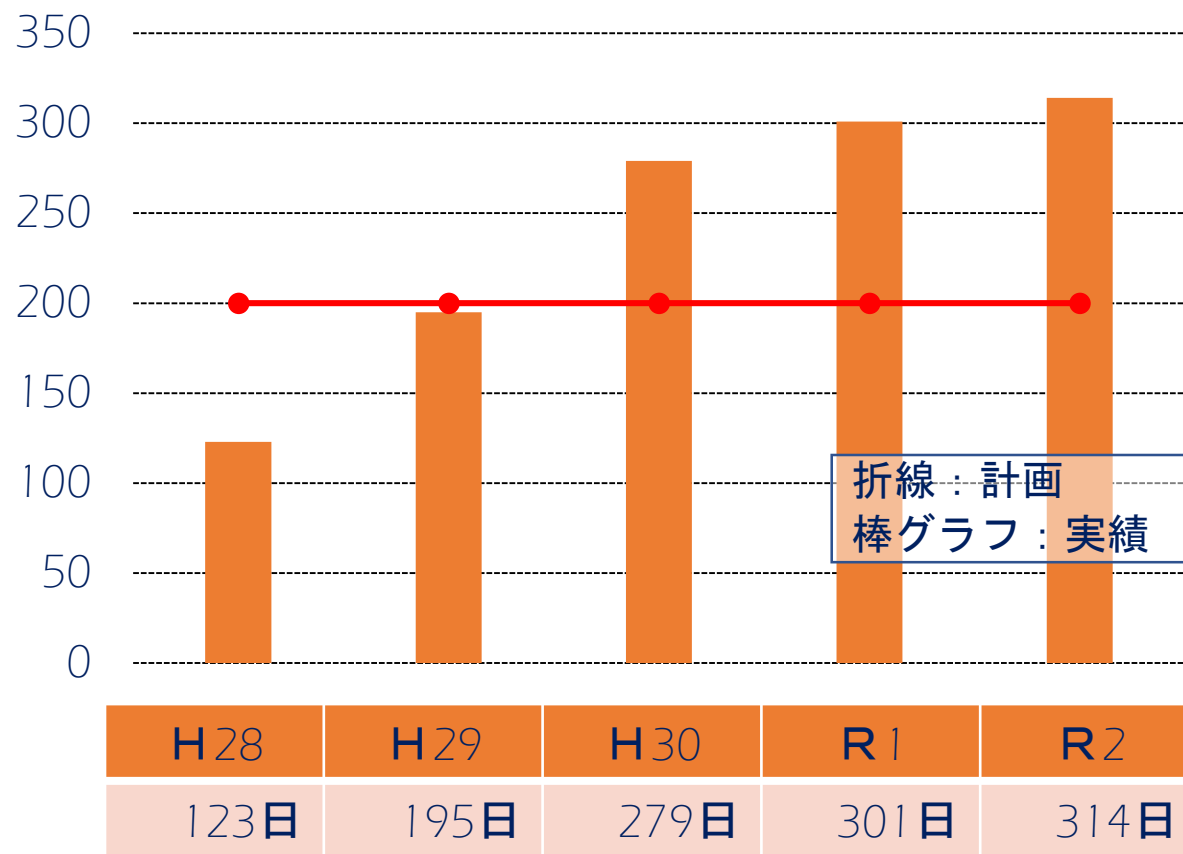


他病院への医師派遣

地域診療応援等による診療圏の拡大，紹介患者の受入れにより入院件数を確保する。
目標値 年200日以上 → H30からは目標値を超える派遣を実施。

自己評価

A



地域の人材育成

市民公開がん講座，函病健康教室，キッズセミナーの開催を通じ，地域の人材育成に努める。→ R2は新型コロナウイルス感染対策のため中止。それ以外は開催。

自己評価

A

区分	H28	H29	H30	R1	R2
市民公開がん講座	5回	5回	4回	5回	1回
函病健康教室	6回	6回	6回	6回	中止
キッズセミナー開催日	H29.2.11	H30.2.10	H31.2.11	R2.2.11	中止

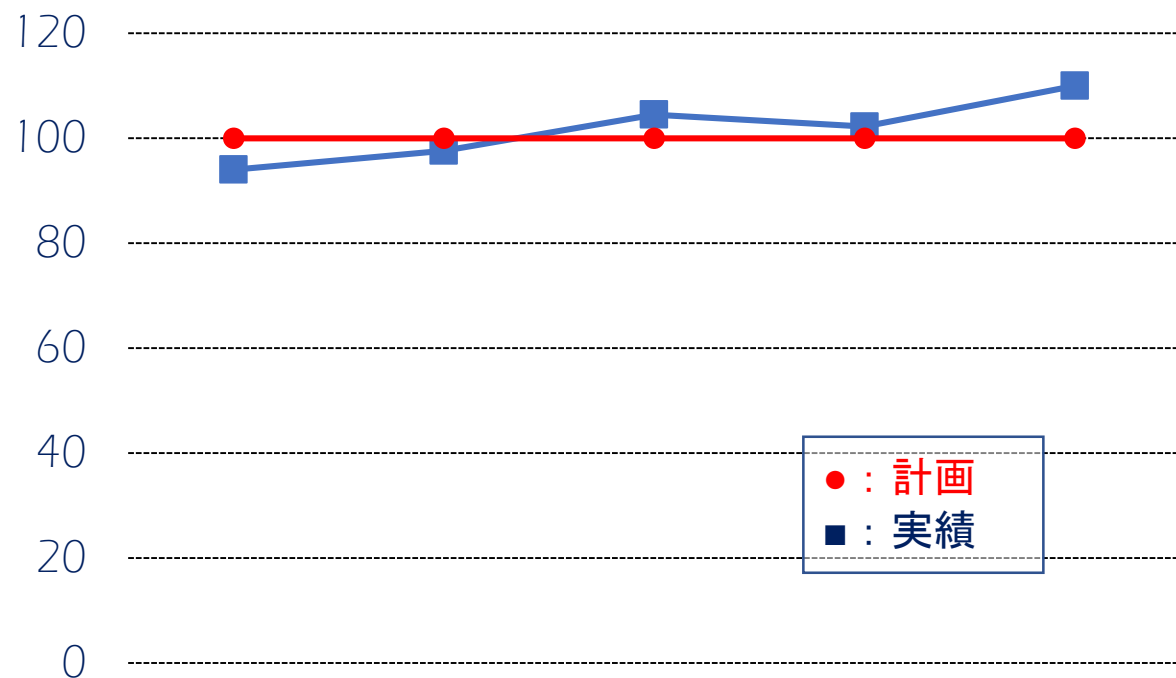


経常収支比率

経常収益（医業収益＋医業外収益）÷経常費用（医業費用＋医業外費用）×100
 目標値100%以上 → H30以降については、目標値を達成。

自己評価

A



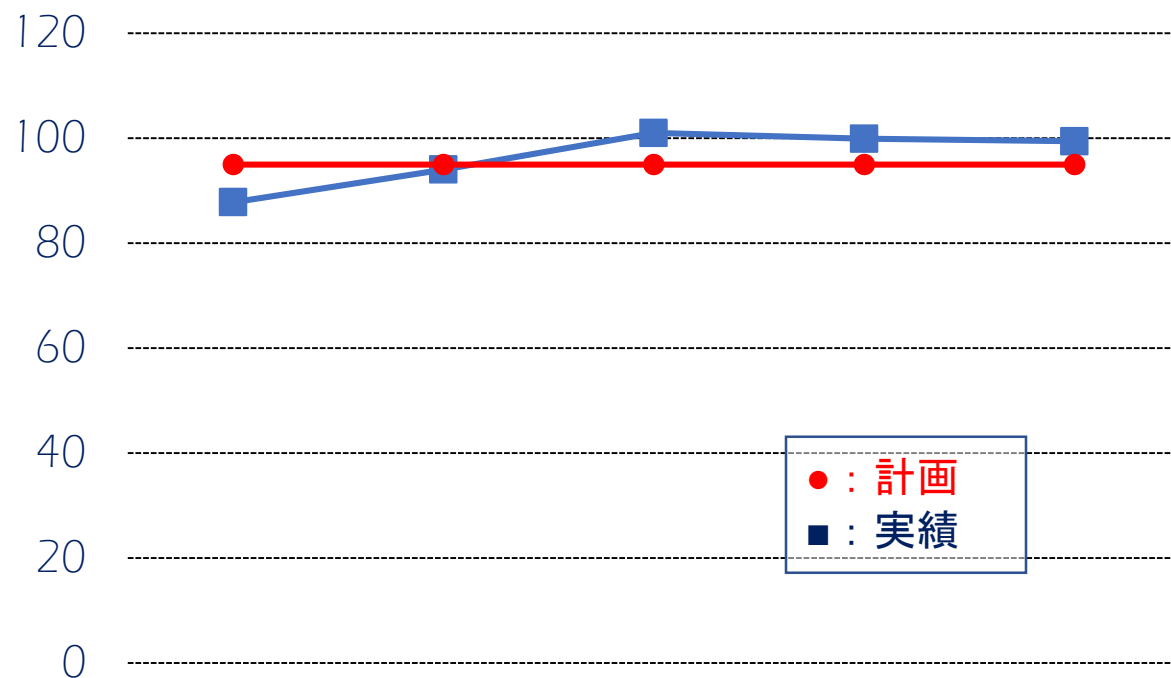
H28	H29	H30	R1	R2
94.0%	97.6%	104.5%	102.2%	110.0%

医業収支比率

医業収益÷医業費用×100
 目標値95%以上 → H30以降については、目標値を達成。

自己評価

A



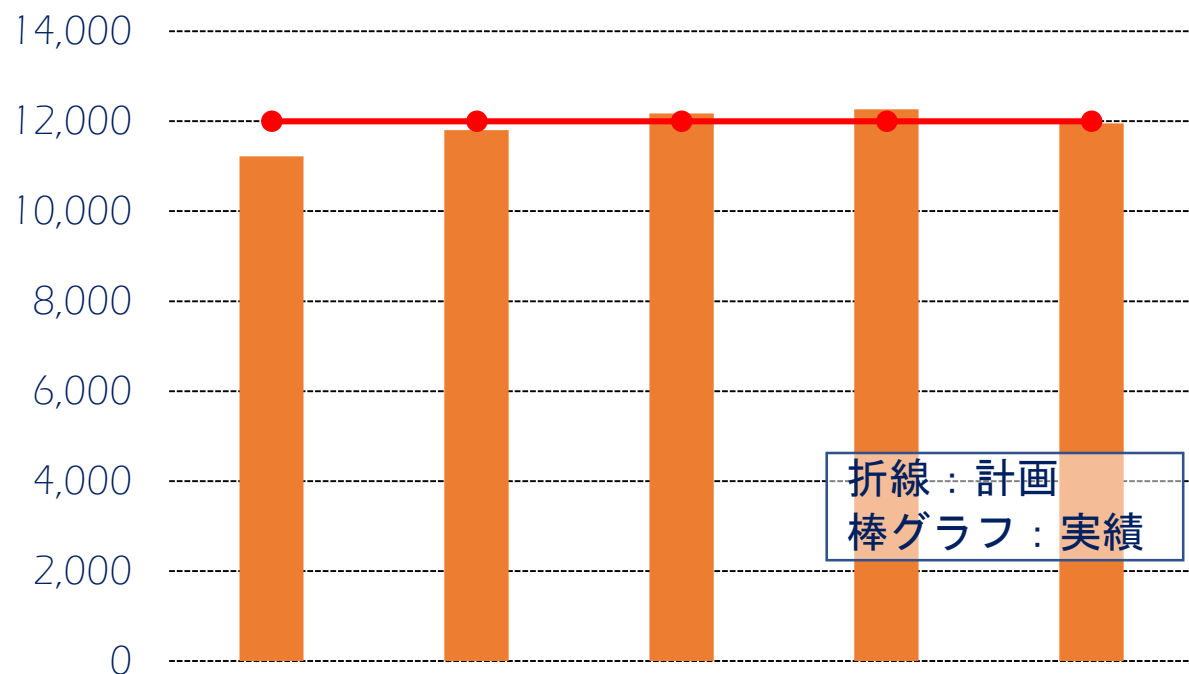
H28	H29	H30	R1	R2
87.8%	94.0%	101.0%	99.9%	99.4%

年間入院件数

目標値 年12,000件（月1,000件）を目標
→ H30, R1は目標値を達成したが, R2は
新型コロナウイルス感染症の影響もあり減
少した。

自己評価

A



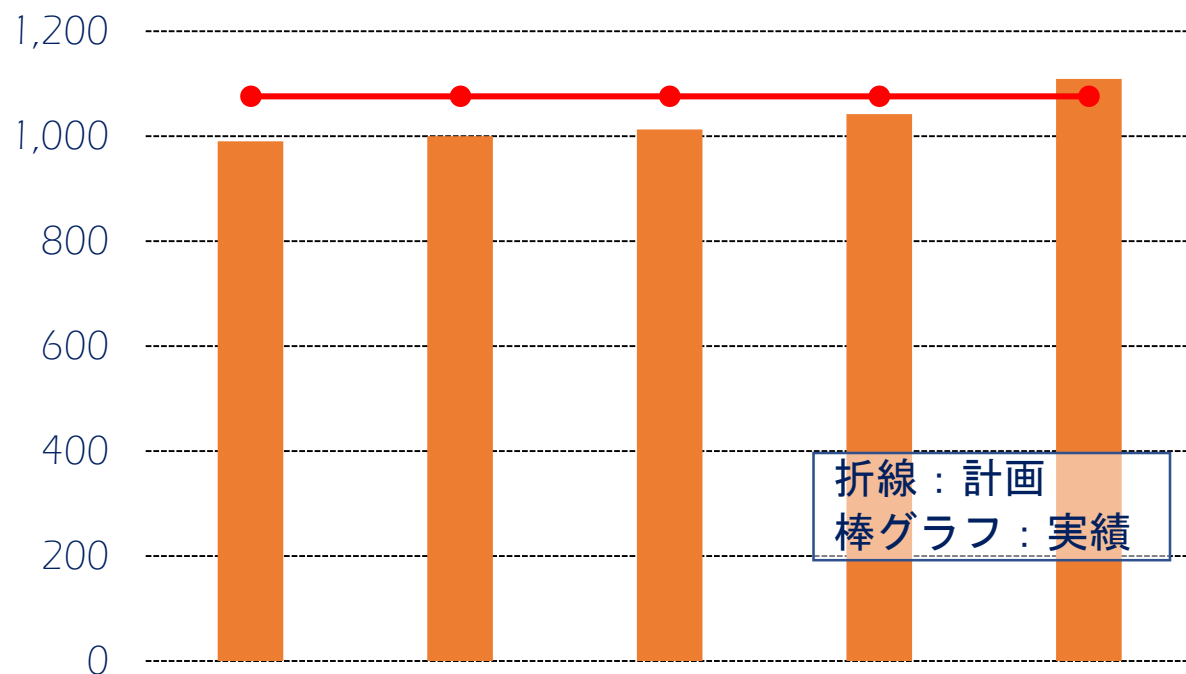
H28	H29	H30	R1	R2
11,220件	11,801件	12,171件	12,263件	11,952件

1件あたり入院収益

目標値 1,076千円以上 → 毎年度, 徐々に増
加し, 最終年次において目標に到達した。

自己評価

A



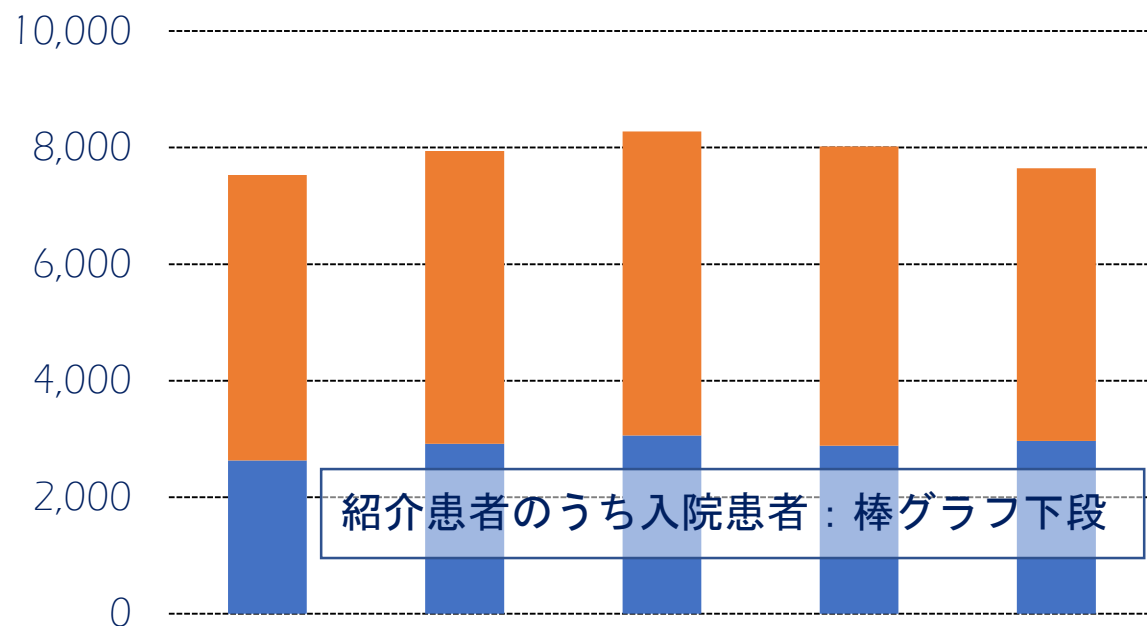
H28	H29	H30	R1	R2
990千円	1,000千円	1,013千円	1,042千円	1,109千円

紹介患者数

院長，副院長等によるクリニックへの訪問を実施。紹介患者を積極的に受入れし入院につなげる。→ R1までは増加傾向だったが，R2は訪問自粛の影響で減少した。

自己評価

A



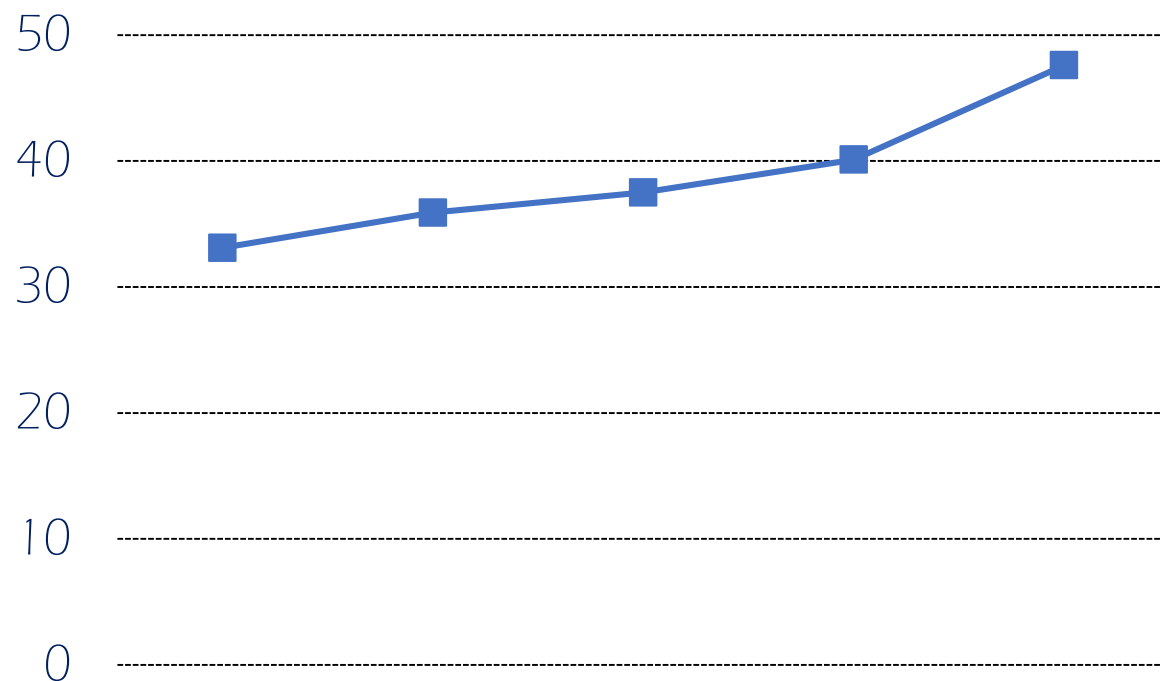
	H28	H29	H30	R1	R2
紹介患者	7,529	7,942	8,276	8,018	7,645
うち入院	2,632	2,918	3,061	2,885	2,963

クリニカルパス適用率

クリニカルパスの適用率を増やし，医療の安全や質の向上に務める。→ 毎年度，適用率は向上し，最終年次には50%に近い適用率となった。

自己評価

A



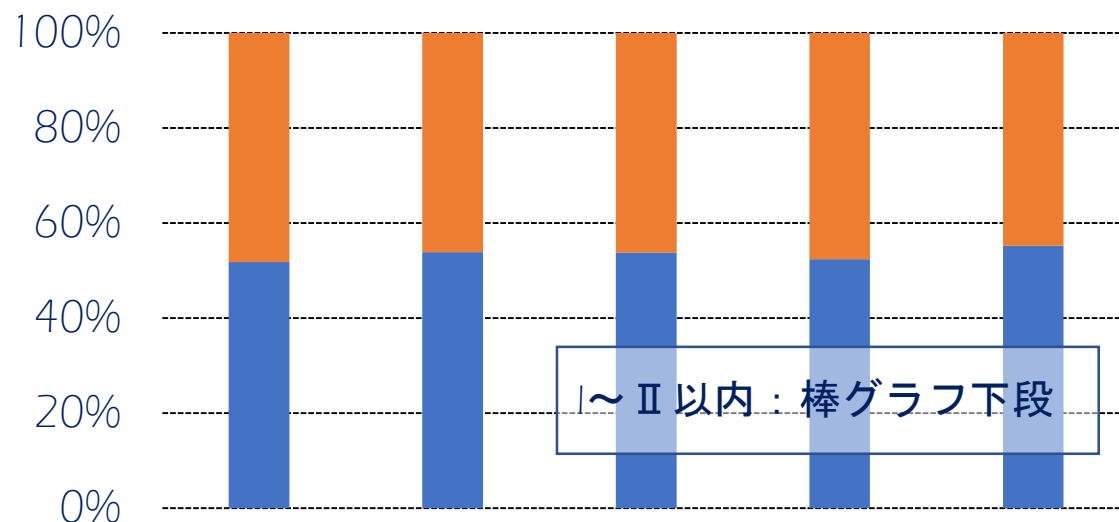
H28	H29	H30	R1	R2
33.1%	35.9%	37.5%	40.1%	47.6%

DPC入院期間・平均在院日数

DPC入院期間Ⅰ～Ⅱでの退院を増やし、平均在院日数の適正化を図る。→診療科ごとに取り組みを進め、R2は期間内退院55%を達成し、平均在院日数も短縮した。

自己評価

A



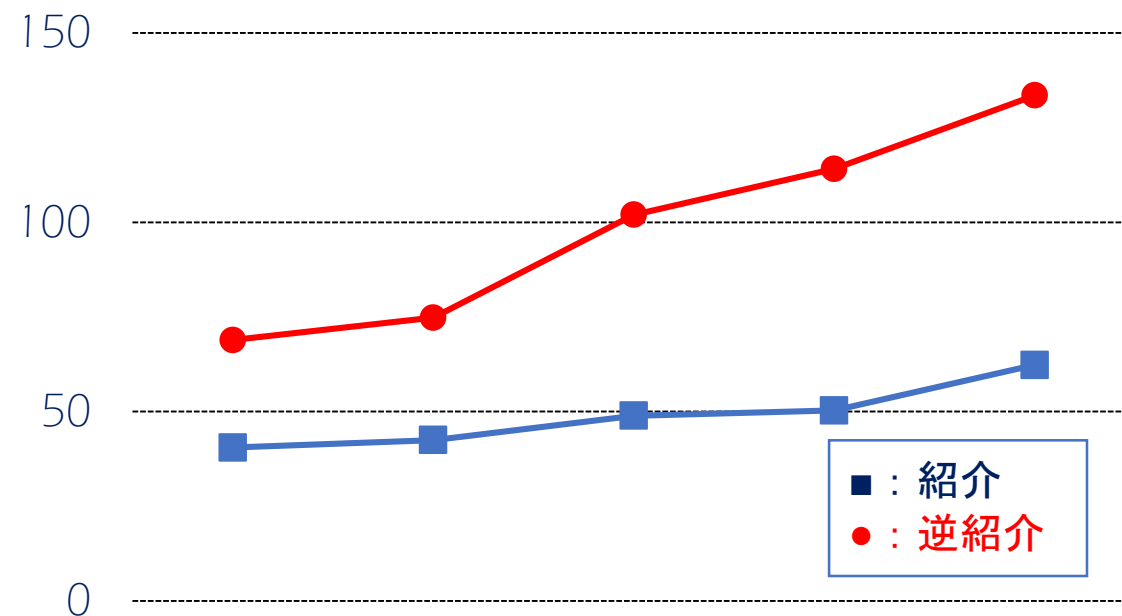
	H28	H29	H30	R1	R2
I～II以内	51.8%	53.9%	53.8%	52.4%	55.2%
期間II超	48.2%	46.1%	46.2%	47.6%	44.8%
平均在院日数	12.6日	12.6日	12.6日	12.9日	12.3日

紹介率・逆紹介率

救急患者を除く紹介率（目標50%）および逆紹介率（目標70%）の向上に取り組み、地域医療支援病院の指定を目指す。→H30から地域医療支援病院加算の算定開始。

自己評価

A



	H28	H29	H30	R1	R2
紹介率	40.5%	42.5%	48.9%	50.3%	62.3%
逆紹介率	68.9%	74.8%	102.0%	114.1%	133.5%

DPC特定病院群（DPCⅡ群）の指定

平成30年度の診療報酬改定時にⅡ群への復帰を目指す。→4つの実績要件のうち手術に関する1つだけ基準値を上回ることができず指定を受けることができなかった。

自己評価

C

精神病棟再開

精神科医を確保し、平成30年度からの精神病棟の再開を目指す。→精神科医を確保することができず、再開することはできていない。

自己評価

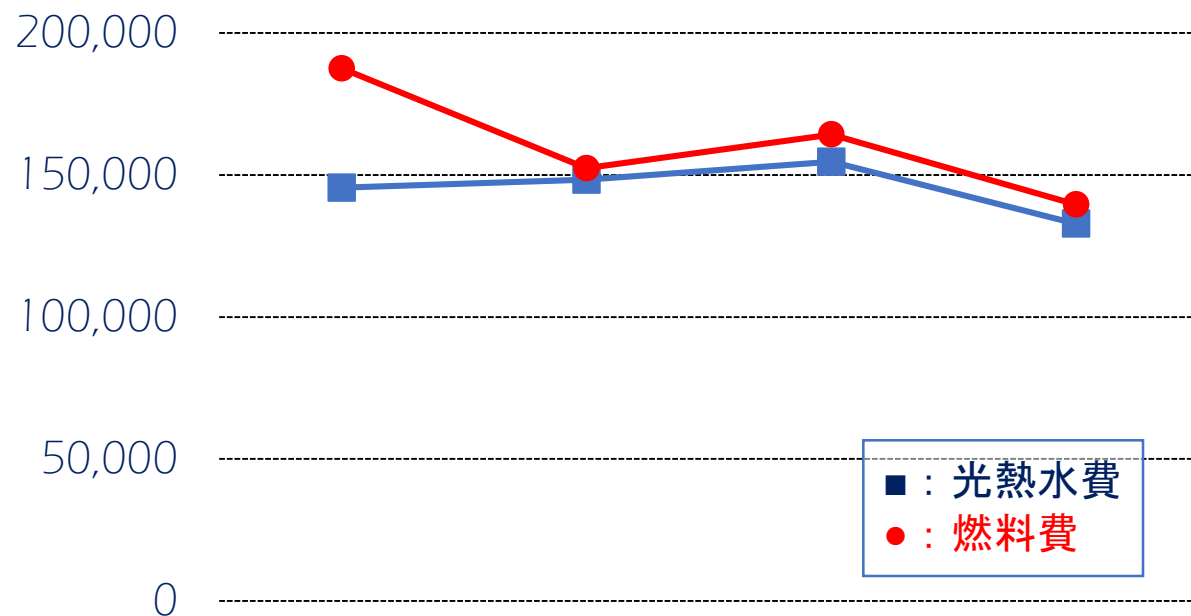
C

ESCO事業による設備改修と維持補修費の削減

省エネのための設備改修にかかる経費を光熱水費の削減分で賄う事業により設備の更新を図り維持補修費の削減を図る。
→H30.4月より稼働。

自己評価

A



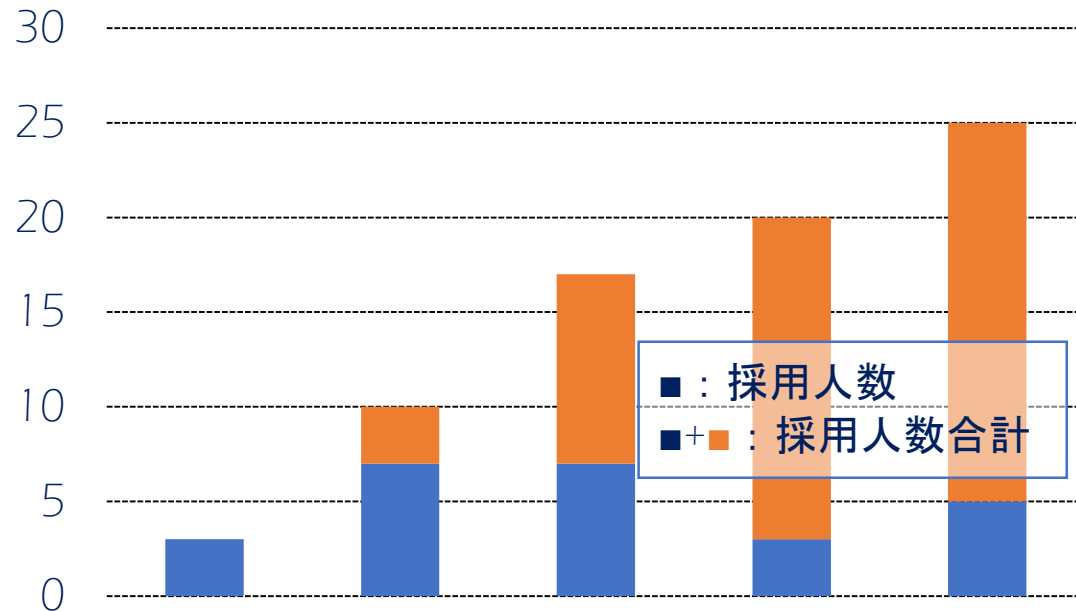
(千円)	H29	H30	R1	R2
光熱水費	145,502	148,314	154,656	132,810
燃料費	187,529	152,386	164,253	139,577

一般事務職員の病院独自採用

全ての事務職員のプロパー職員化を推進するとともに、民間病院並みの効率化を目指して職員の研鑽に励む。→事務職員のプロパー職員化を推進。

自己評価

A



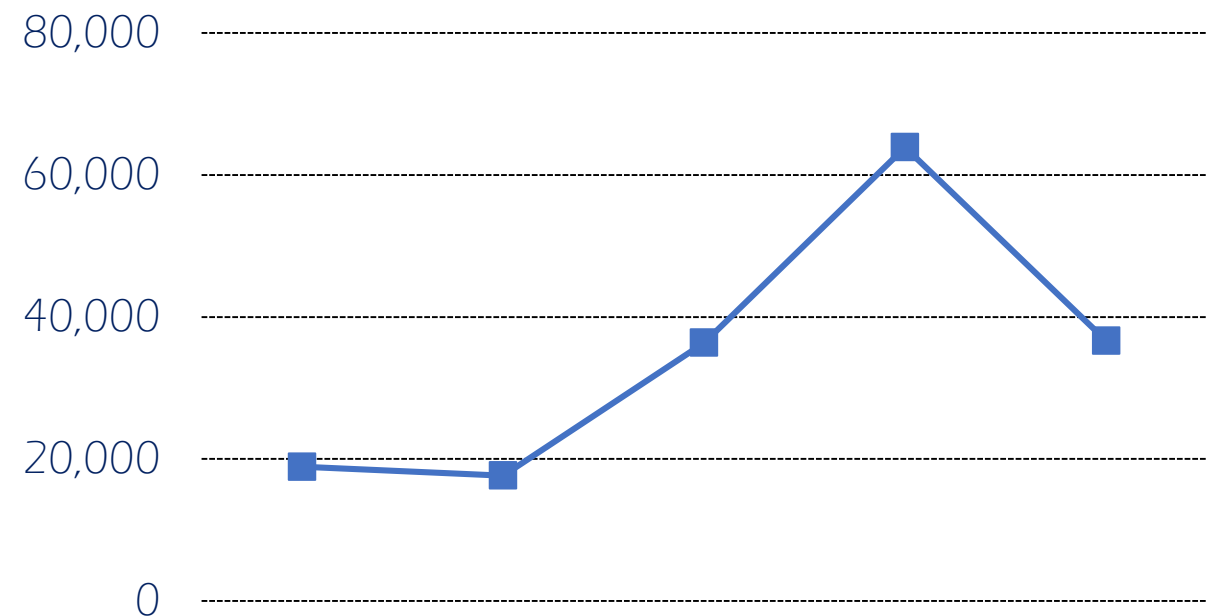
	H28	H29	H30	R1	R2
採用人数	3人	7人	7人	3人	5人

治験、製造販売後臨床試験への積極的な参加

治験等への参加は医療の進歩の一助となり、得られる収入は病院経営に有効であるため、積極的な参加に努める。→積極的に参加し、収入を確保した。

自己評価

A



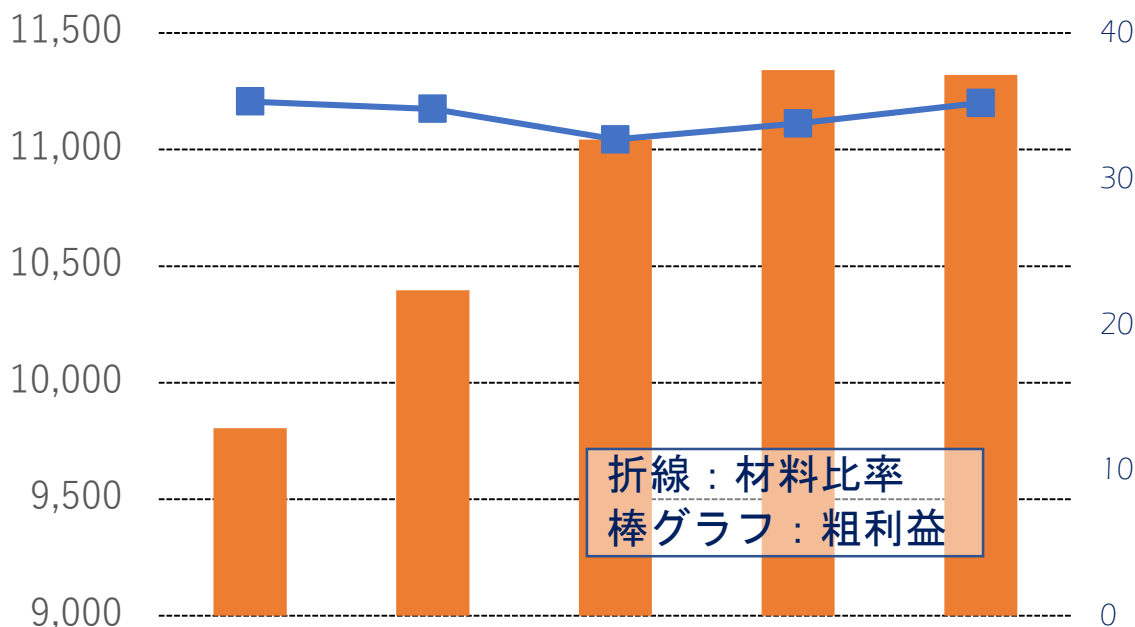
(千円)	H28	H29	H30	R1	R2
収入額	18,888	17,645	36,365	63,909	36,661

材料比率の見直し

材料比率の低減を図る。→ H30.4月から共同購入組織に加盟しコスト削減を実現。院内では共同購入品への切替について議論。

自己評価

A



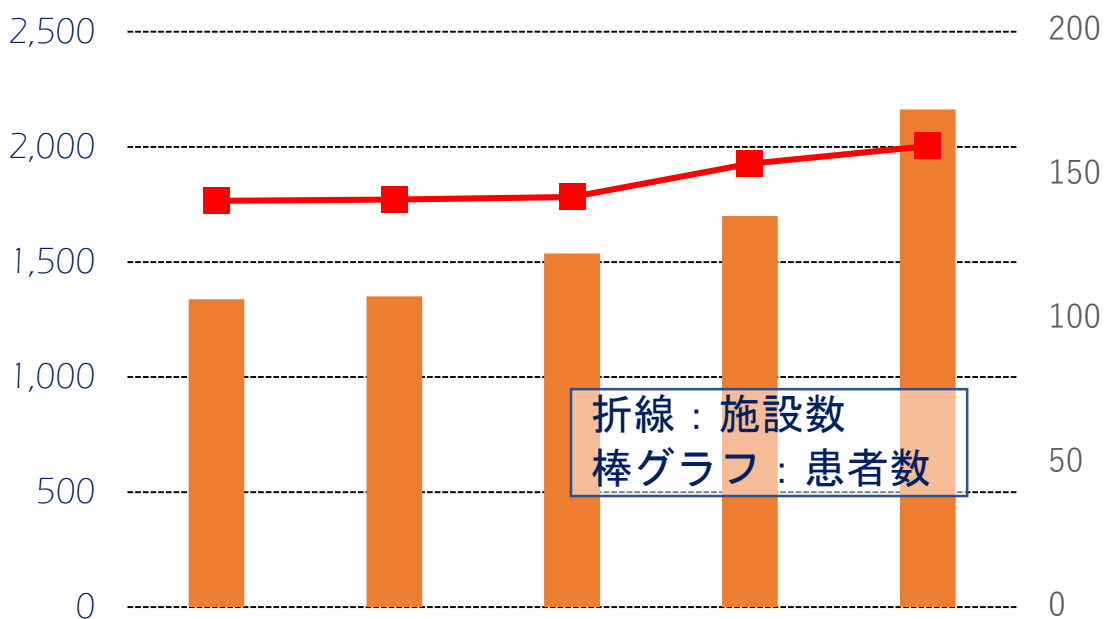
%, 百万円	H 28	H 29	H 30	R 1	R 2
材料比率	35.3	34.8	32.7	33.8	35.2
粗利益	9,805	10,397	11,043	11,341	11,320

再編・ネットワーク化

道南地域医療ネットワーク（Medlka）の充実に努める。→ 参加施設数及び同意患者数の拡大に努めた。

自己評価

A



個所, 人	H 28	H 29	H 30	R 1	R 2
施設数	107	108	123	136	173
患者数	1,766	1,771	1,783	1,927	2,004

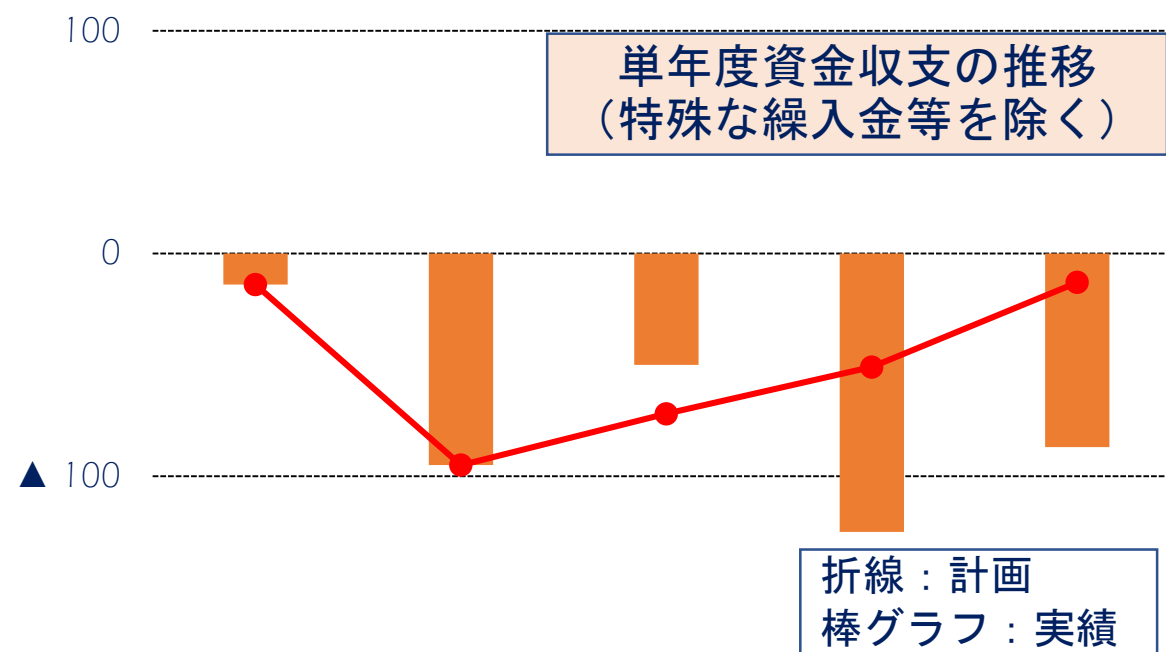
3 恵山病院の取組みと自己評価について

恵山病院は「恵山・戸井・楳法華地域におけるプライマリケアおよび救急医療の提供，ならびに慢性期における入院医療を担う」ことを役割として掲げ，地域における唯一の病院として入院医療，救急医療を提供してきた。具体的な取り組み内容と評価は下記のとおりである。経営状況は，赤字で推移しており，安定的な運営に向けての検討が必要であることから，全体的な評価はBとした。

自己評価
(全体)

B

区 分	自己評価
入院患者のうち医療区分 ^{2,3} の割合	A
救急患者受入人数	B
入院透析患者数	A
外来透析患者数	A
地域ケア会議の開催	A



▲ 200

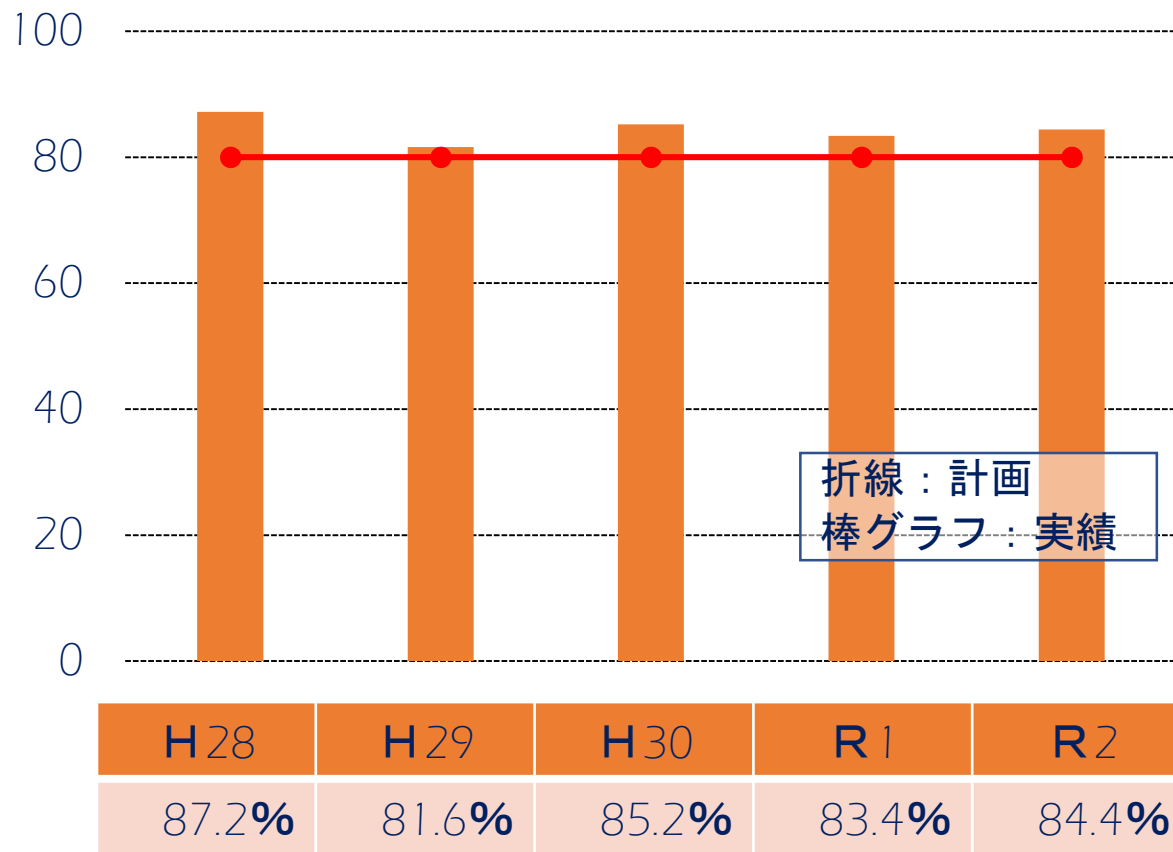
(百万円)	H28	H29	H30	R1	R2
計画	▲14	▲95	▲72	▲51	▲13
実績	▲14	▲95	▲50	▲125	▲87

入院患者のうち医療区分2,3の割合

地域における唯一の病院として、特に医療の必要度が高い方への医療を提供する。**目標値 医療区分 2, 3 の割合を80%以上で維持** → 毎年度目標を達成。

自己評価

A

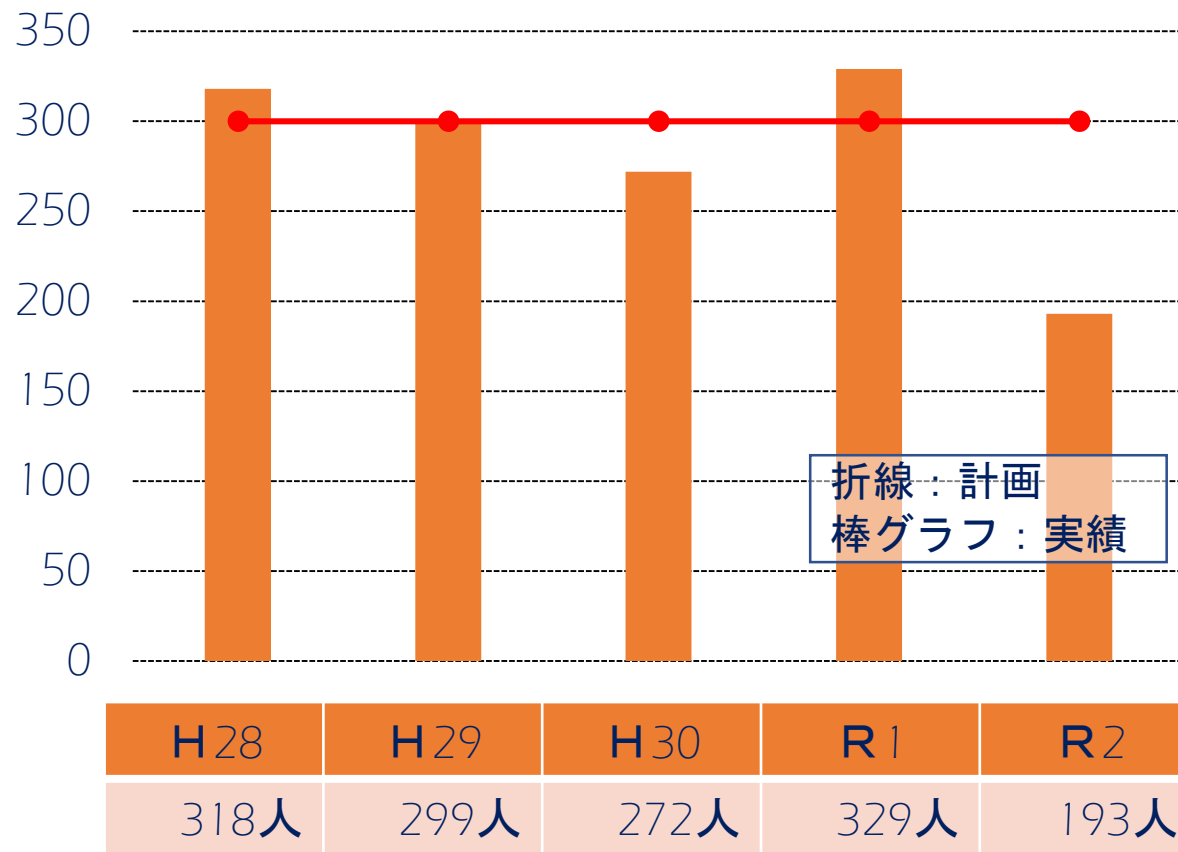


救急患者受入人数

地域における唯一の病院として、救急医療を提供する。**目標値 年300人以上を維持** → H30, R2の2か年は目標を達成することができなかった。

自己評価

B

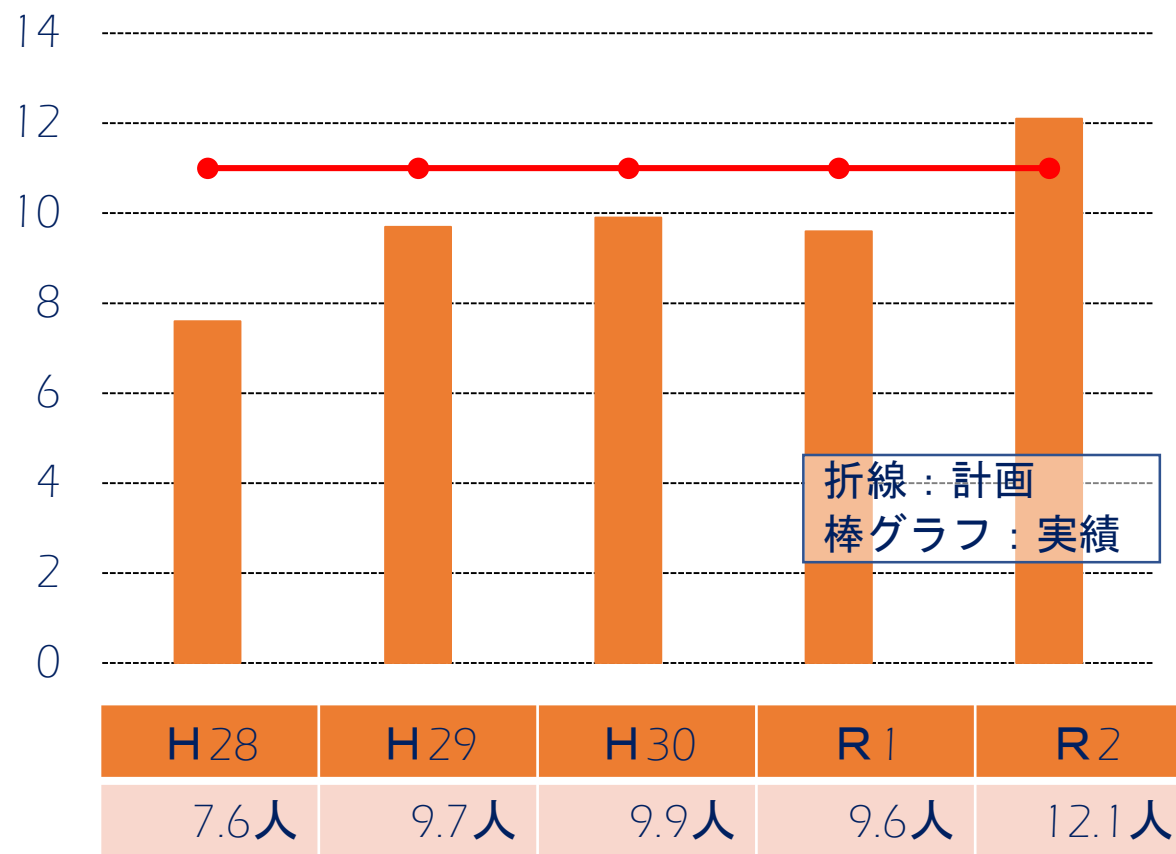


入院透析患者数

人工透析に代表される慢性期医療を提供する。**目標値 11人** → R1に透析室をリニューアルし、透析ベッドを8床から12床に増床。R2に目標を達成。

自己評価

A

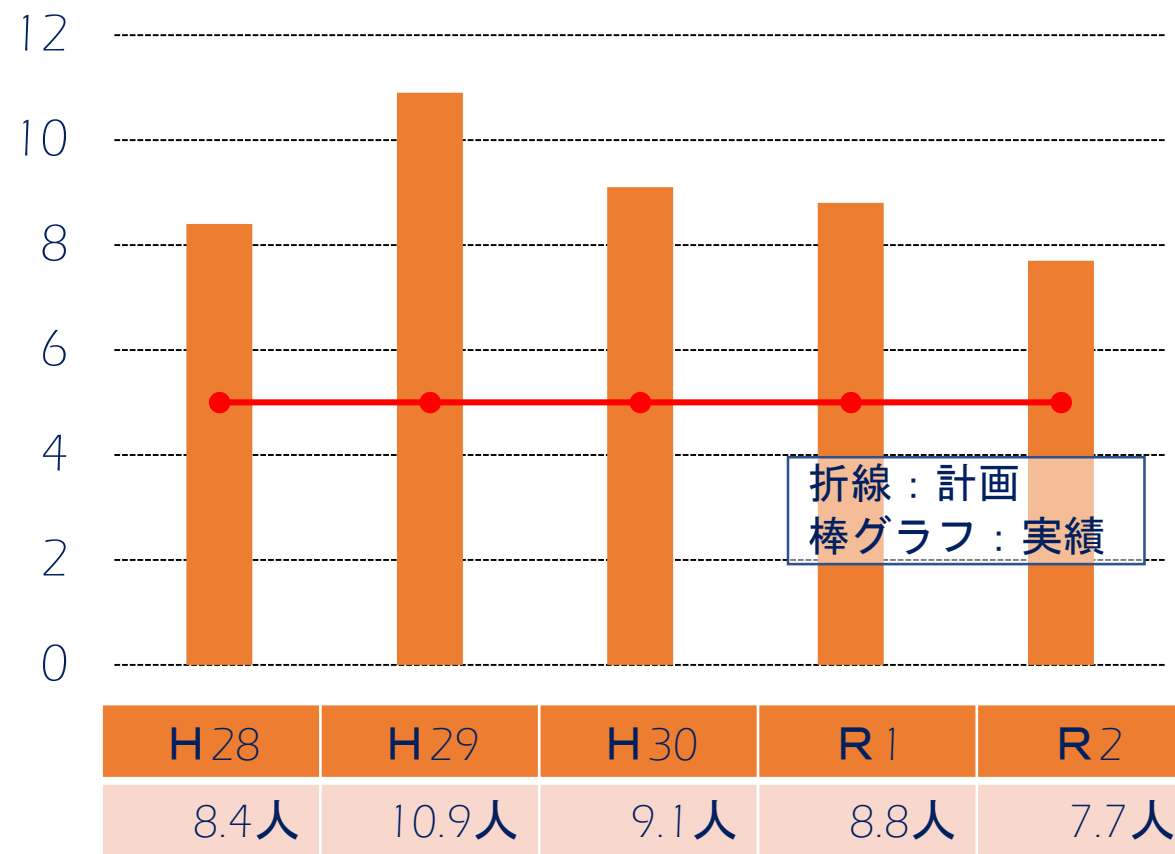


外来透析患者数

人工透析に代表される慢性期医療を提供する。**目標値 5人** → 毎年度目標値を確保。

自己評価

A



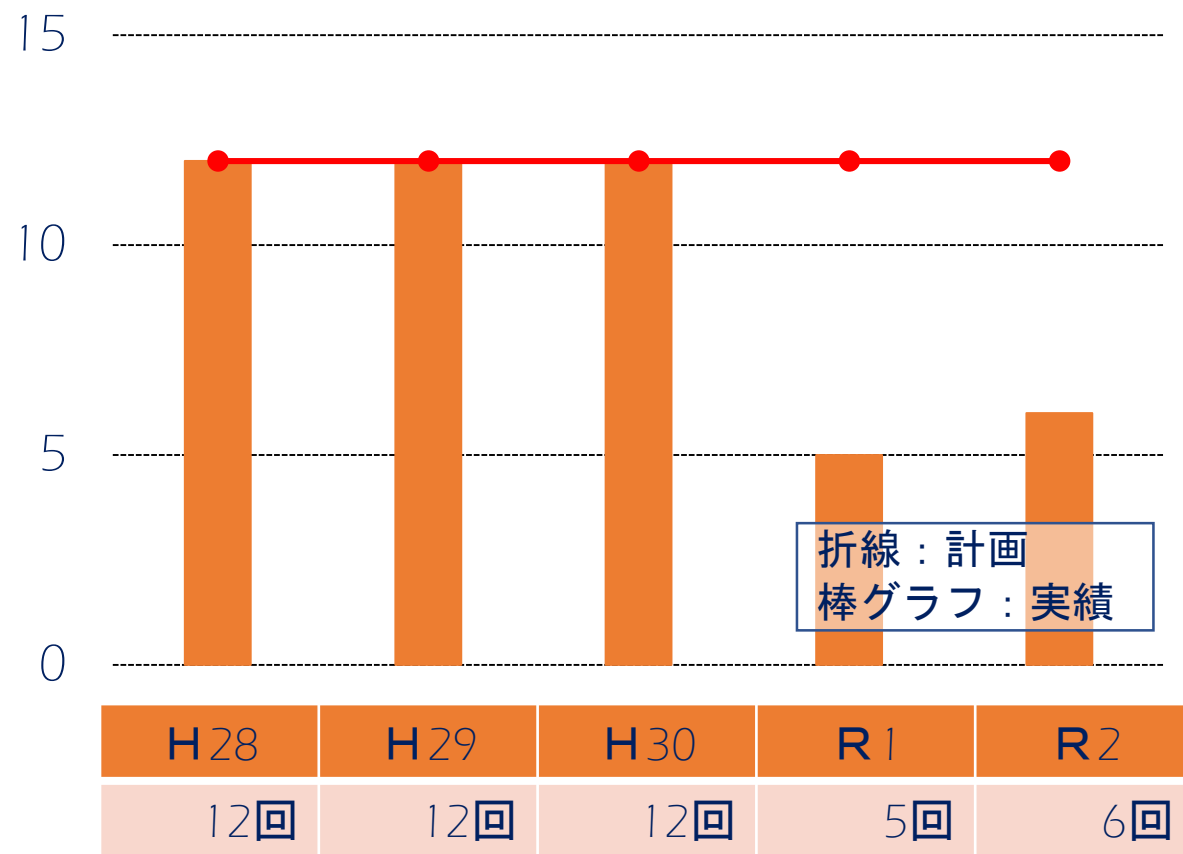
地域ケア会議の開催

地域の医療，介護関係者等との会議を定期的に開催し，医療と介護の連携を進める。

目標値 年12回開催を維持 → R1以降は，隔月開催に変更のため減少した。

自己評価

A



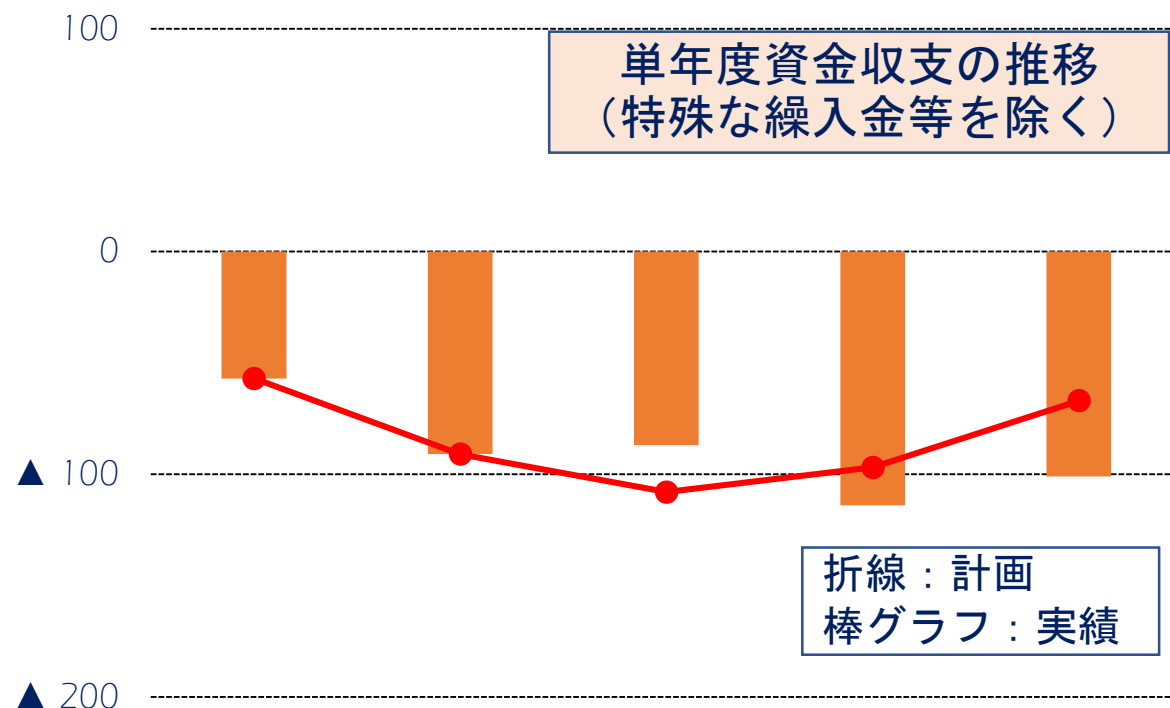
4 南茅部病院の取組みと自己評価について

南茅部病院は「南茅部地域におけるプライマリケアおよび救急医療の提供，ならびに急性期および慢性期における入院医療を担う」ことを役割として掲げ，地域における唯一の病院として入院医療，救急医療を提供してきた。具体的な取組み内容と評価は下記のとおりである。経営状況は，赤字で推移しており，安定的な運営に向けての検討が必要であることから，全体的な評価はBとした。

自己評価
(全体)

B

区 分	自己評価
救急患者受入人数	B
地域ケア会議の開催	A
地域との懇談会等の開催	C



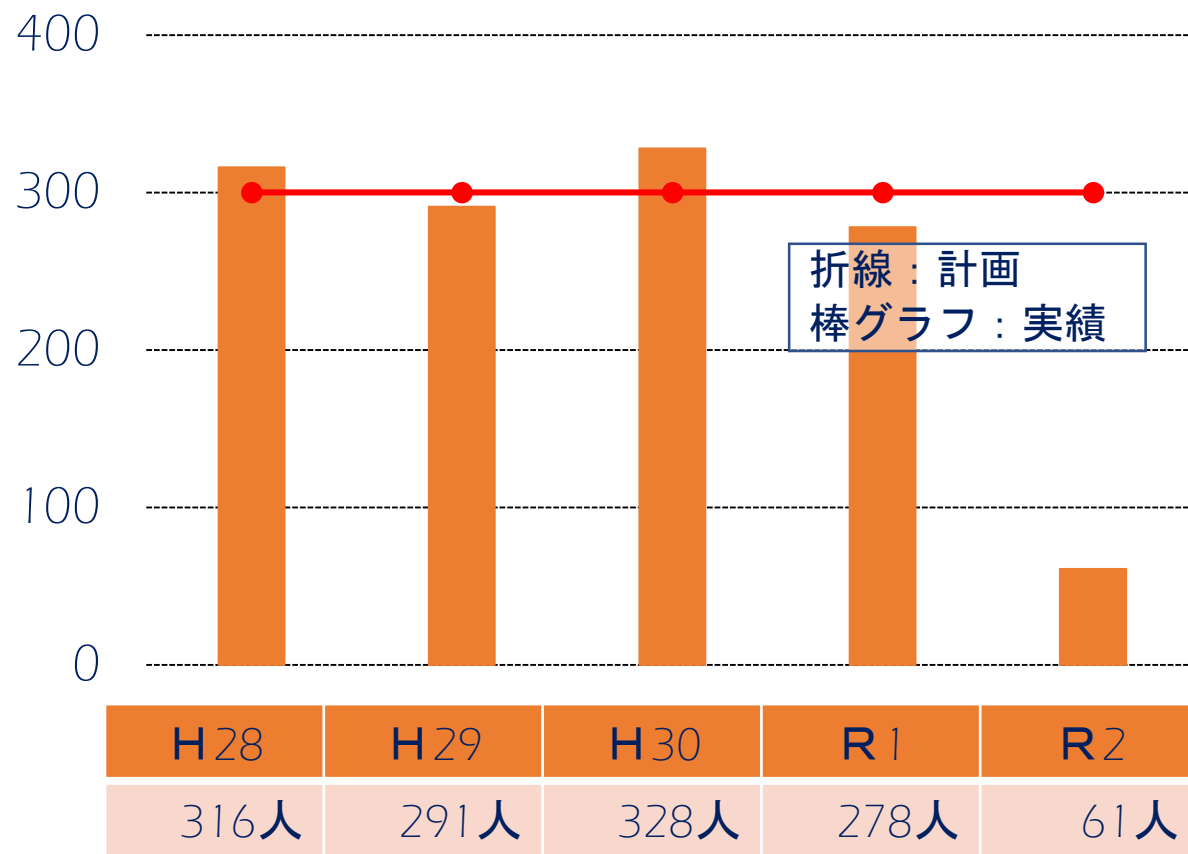
(百万円)	H28	H29	H30	R1	R2
計画	△57	△91	△108	△97	△67
実績	△57	△91	△87	△114	△101

救急患者受入人数

地域における唯一の病院として、救急医療を提供する。**目標値 年300人以上を維持**
→ H29, R1, R2の3か年は目標を達成することができなかった。

自己評価

B

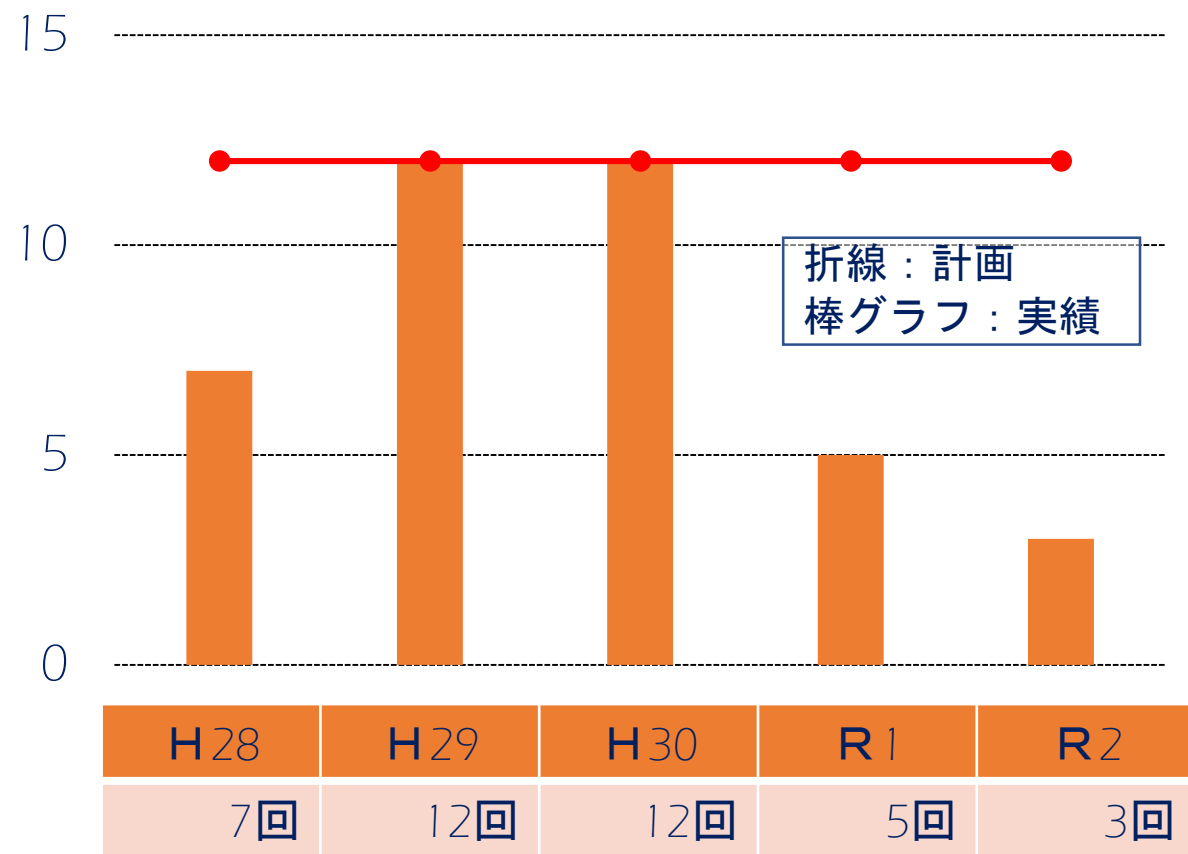


地域ケア会議の開催

地域の医療、介護関係者等との会議を定期的に開催し、医療と介護の連携を進める。**目標値 年12回開催を維持** → H28から参加R1以降は、隔月開催に変更のため減少した。

自己評価

A

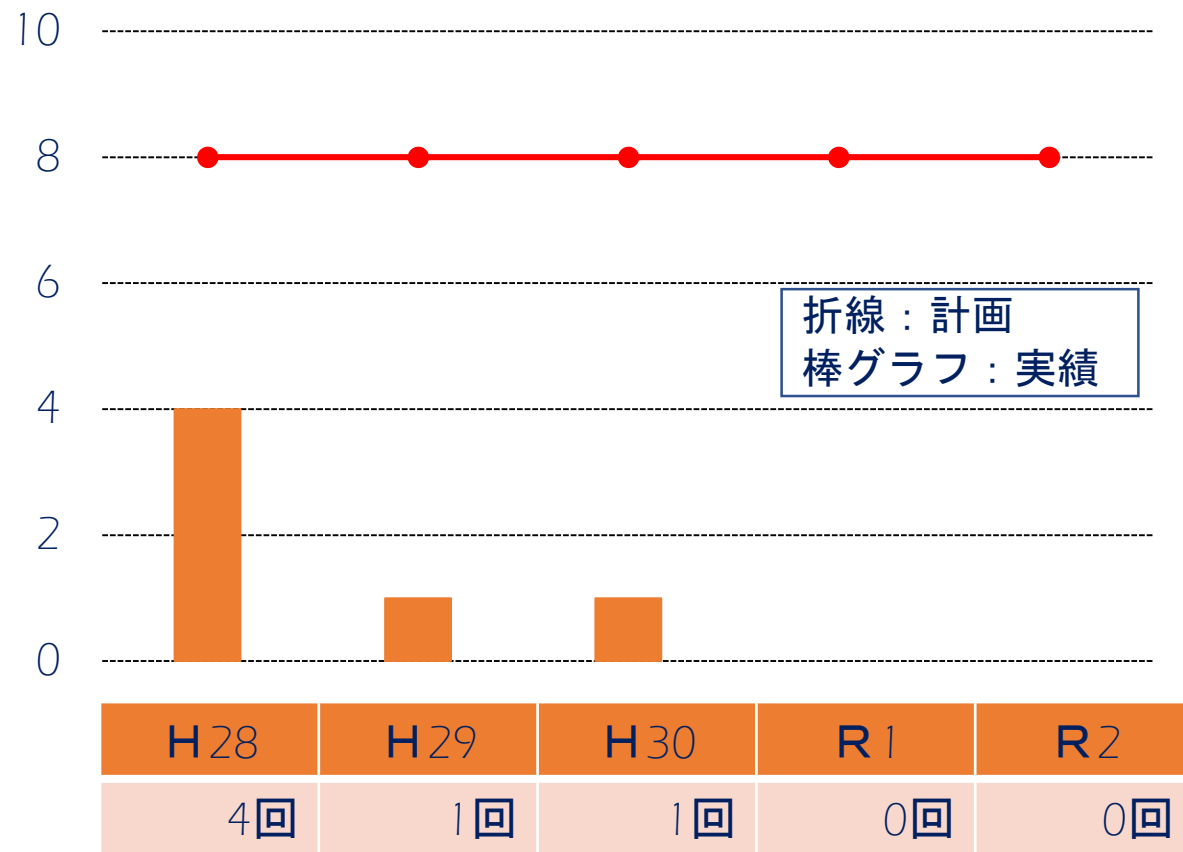


地域との懇談会等の開催

地域住民等の信頼を持続的なものとするため、病院運営改善のための懇談会等を開催する。**目標値 年8回開催** → R1以降は開催することができなかった。

自己評価

C



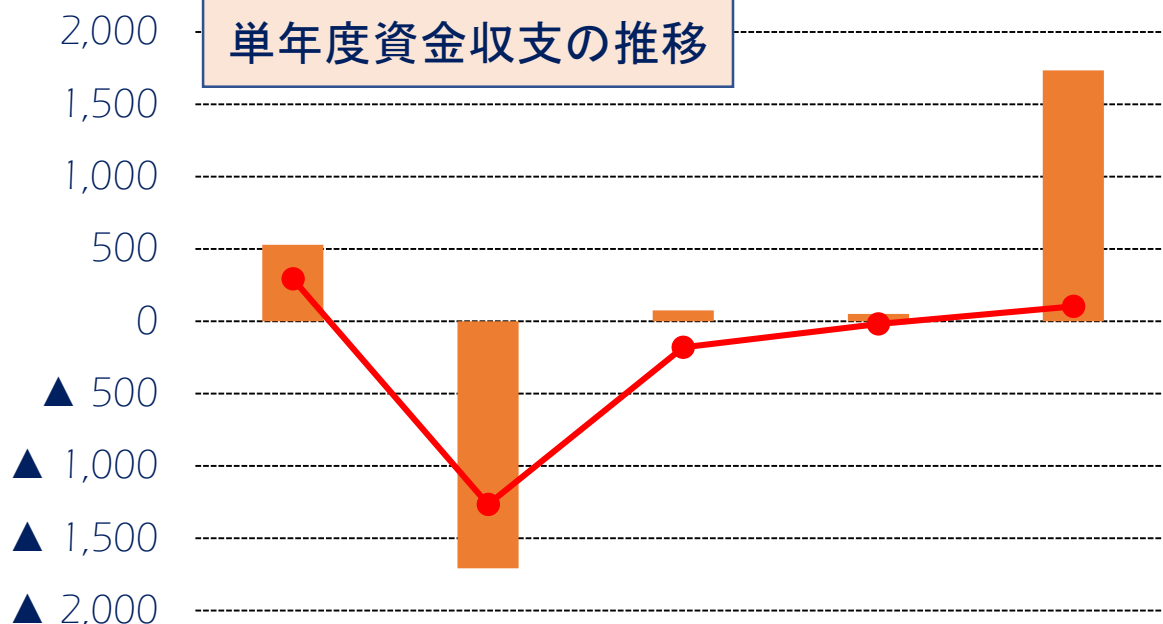
5 経営に関する全体的な自己評価（3病院）

プラン目標：各種対策を講じることによりR2単年度資金ベースで黒字 → H30より黒字化。R2累積資金過不足額は▲1,313百万円に圧縮。(R2実績はコロナ関連の特殊な補助1,680百万円含む。) 函館病院は、改革プランに掲げた取り組みを進め、H30より3か年連続で単年度黒字を実現。恵山病院、南茅部病院は、収支不足分を市から支援を受け、地域における唯一の病院として役割を果たした。

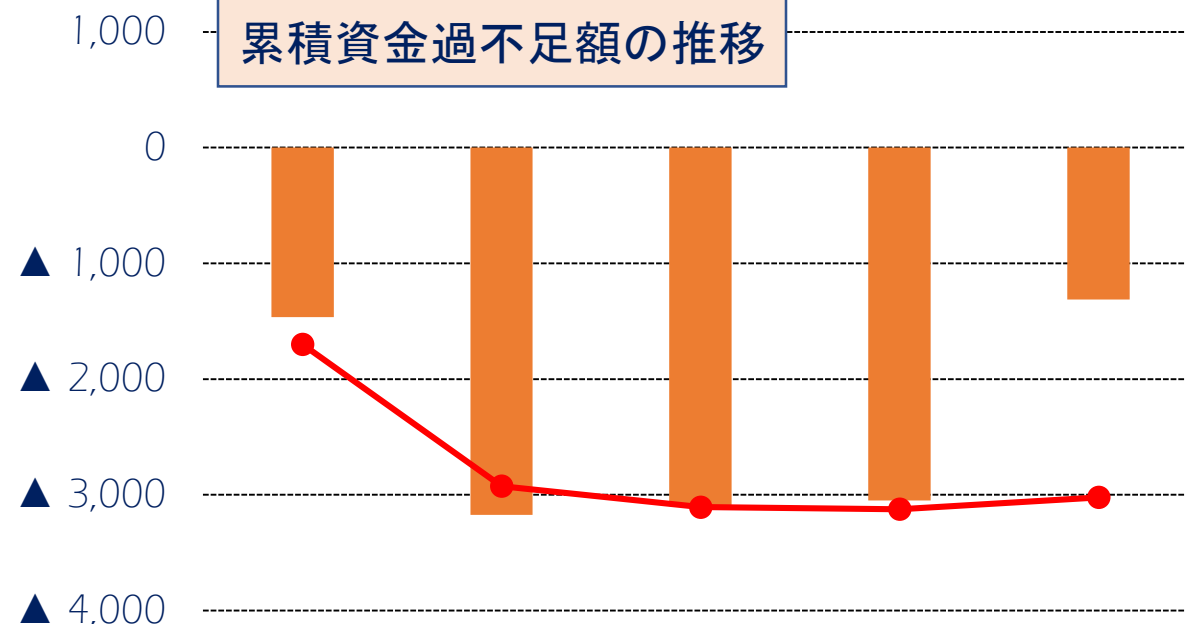
自己評価
(全体)

A

単年度資金収支の推移



累積資金過不足額の推移



(百万円)	H28	H29	H30	R1	R2
計画	293	▲1,226	▲180	▲19	103
実績	528	▲1,708	74	50	1,735

(百万円)	H28	H29	H30	R1	R2
計画	▲1,700	▲2,926	▲3,106	▲3,125	▲3,022
実績	▲1,465	▲3,173	▲3,099	▲3,049	▲1,313

6 函館市病院事業経営改革評価委員会による総合的な評価

- 「函館市病院事業経営改革評価委員会」は、医師不足や診療報酬マイナス改定等により、累積の資金不足が最大約32億円となるという非常に厳しい状況の下、平成28年度に策定された「（新）函館市病院事業改革プラン」による改善状況の点検等を目的とし、これまで議論を重ねてきました。
- 委員会として、市病院局に対し、材料比率の見直しなど経営改善のための提言を行ってきたところですが、函館病院では平成30年度から、3年連続で収支均衡を達成するなどの結果を出しました。
- 恵山病院、南茅部病院では、地域唯一の病院として、住民に対し継続して医療の提供を行っていますが、持続的な運営に向けてさらなる検討の余地があります。
- 3病院の中でも、函館病院の経営は上向きになっており、これらの状況を踏まえ、当委員会におけるプランに関する総合的な評価は「A（仮）」とします。
- なお、今後についても、引き続き経営改善を推進するとともに、道南圏の地域医療の充実に努めることを希望します。

函館市病院事業経営改革評価委員会 委員長 鎌田 直善

総合評価
（仮）

A